

授業科目名： 英語学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細井洋伸
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>●授業のテーマ：英語（及び人間の言語一般）の特徴を理解し、特に英語の音声の仕組みや語形成の規則、歴史的変遷について理解する。</p> <p>●到達目標：英語学の理論や、英語の音声の仕組み（音声学・音韻論）、語形成（形態素）について理解している。さらに、英語が国際共通語となるまでの歴史的変遷を理解した上で、英語学的知見を身につけ、英語の学習や指導のあり方について論じることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、日本語とは異なる英語独特の発音から始まり、語形成の規則や文法理論、英語が国際共通語に至るまでの歴史的変遷といった英語学に関わる多様な分野を概観していく。中学校の英語担当教員として理解しておくべき英語学の基礎知識の理解を深める</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： Course Orientation</p> <p>授業の進め方、授業内で用いるテキストの使い方などについて説明を行う。</p> <p>第2回： What is English Linguistics?</p> <p>英語学とは何か、英語の起源と仕組み（音声・統語・意味・語用など）の概要について学ぶ。</p> <p>第3回： Theory of English Grammar</p> <p>日本語と英語の語彙・文法的な面における違いから、英文法の理論（構造主義、生得主義、創発主義など）について学ぶ。</p> <p>第4回： Articulator</p> <p>母音や子音を正しく発音するための調音器官について学ぶ。</p> <p>第5回： Phonetics①: English Vowel</p> <p>英語の母音を区別することができるように、二重母音・単母音など母音を区別して発音できるように学ぶ。</p> <p>第6回： Phonetics②: English Consonants</p> <p>英語の子音について、調音方法・調音位置・有声性という3要素について理解し、子音を区別して発音できるように学ぶ。</p> <p>第7回： Phonetics③: Vocal Inflection</p> <p>英語の音声変化について理解し、音声変化を踏まえた発音について学ぶ。</p> <p>第8回： Phonology①: Phoneme and Syllable Structure</p>			

英語の音節構造について理解し、音節の切り分け方について学ぶ。

第9回：Phonology②: Stress, Rhythm and Intonation

英語の強勢について理解し、語強勢・文強勢について学ぶ。また、日本語と英語のリズムの違いについて理解し、リズムを取る発音について学ぶ

第10回：The History of English①: Old English and Middle English

英語の歴史の変遷、特に古英語と中英語の歴史的背景と語彙・文法的特徴について学ぶ。

第11回：The History of English②: Modern English

英語の歴史の変遷、特に近代英語の歴史的背景と語彙・文法的特徴について学ぶ。

第12回：The History of English③: English as a Lingua Franca

英語が国際共通語となるまでの多様化と標準化の動きについて学ぶ。

第13回：Morphology①: Free and Bound Morphemes

意味を持つ最小の言語単位である形態素 (morpheme) について学ぶ。

第14回：Morphology②: Various Ways of Word Formation

語形成について理解し、その種類や特徴を知り、語の内部構造について学ぶ。

第15回：Conclusion

本授業で学習してきた内容である、英語の音声、音声について理解や英語の歴史の変遷及び国際共通語としての英語の実態についてまとめを行う。

定期試験

テキスト

井上逸平 (2015) 『グローバルコミュニケーションのための英語学概論』慶應義塾大学出版会

参考書・参考資料等

- ・小学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)
- ・中学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)
- ・高等学校学習指導要領 (平成 30 年 3 月告示 文部科学省)
- ・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 (平成 29 年 7 月 文部科学省)
- ・中学校学習指導要領解説 外国語編 (平成 29 年 7 月 文部科学省)
- ・高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 (平成 30 年 7 月 文部科学省)
- ・西光義弘 (編) (2015) 『日英語対照による英語学概論』くろしお出版.
- ・影山太郎、ブレンド・デ・シェン、日比谷潤子、ドナ・タツキ (2004) 『First Steps in English Linguistics』第2版 くろしお出版
- ・長谷川瑞穂 (編著) (2014) 『はじめての英語学 <改訂版>』研究社
- ・Victoria Fromkin, Robert Rodman and Nina Hyams (2018) *An Introduction to Language, 11th edition*. Cengage Learning.

学生に対する評価

定期試験 (50%)、クイズ (30%)、授業に対する取り組み (20%)

授業科目名： 英語学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細井洋伸
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>●授業のテーマ：英語（及び人間の言語一般）の特徴を理解し、特に英語における語や文の構造や文の持つ意味を中心に、さらに社会と英語との関係、英語の習得、コミュニケーションなどについて理解する。</p> <p>●到達目標：英語の英文法の構造や理論、意味について理解している。さらに、英語学的知見を身につけ、英語の学習や指導のあり方について論じることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業の概要：本授業では、日本語とは異なる英語独特の語形成の規則や文法理論、語用論、社会言語学、言語習得と脳機能の関係、といった英語学に関わる多様な分野を概観していく。中学高校の英語担当教員として理解しておくべき英語学の基礎知識の理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Course Orientation 授業の進め方、授業内で用いるテキストの使い方などについて説明を行う。</p> <p>第2回：Syntax①: X-bar Schema and Complements and Adjuncts Xバー理論や補語などについて理解し、文構造の成り立ちとその仕組みについて学ぶ。</p> <p>第3回：Syntax②: Various Types of Movement 様々な生成文法用語を理解し、国際的な英語の活用法について学ぶ。</p> <p>第4回：Syntax③: Figure-Ground, Perception, and Action Chain 認知言語学の様々な基本概念を理解しながら、英語の構文の特徴について学ぶ。</p> <p>第5回：Semantics/Meaning①: What is Semantics? 語や文の意味に関して、言語学、英語学的な考え方について学ぶ。</p> <p>第6回：Semantics/Meaning②: Categorization and Prototypes カテゴリー理論とプロトタイプ理論について理解し、言語の認知の仕方について学ぶ。</p> <p>第7回：Semantics/Meaning③: Metaphor and Metonymy メタファー、メトニミーによって英語の表現がどのように拡張されるのか、その拡張のされ方について学ぶ。</p> <p>第8回：Pragmatics①: Cooperative Principle and Conversational Implicature 会話の含意とその含意が生じる仕組みについて学ぶ。</p> <p>第9回：Pragmatics②: Performatives and Felicity Conditions</p>			

発話行為が適切に行われるための条件について学ぶ。

第10回：**Sociolinguistics①：Social and Regional Differentiation of Language**

社会の地域性や文化と関連付け、英語のバリエーションについて学ぶ。

第11回：**Sociolinguistics②：World Englishes**

英語の多様性を相対化する視点で、世界各地で話されている英語の特徴について学ぶ。

第12回：**Language and Brain①：Grammar Processing**

国際共通語である英語に関わる脳の仕組みと脳の言語機能に関わる文法処理のメカニズムについて学ぶ。

第13回：**Language and Brain②：Four Skills in English**

側頭葉・前頭葉・ウェルニッケ野の働きについて理解し、国際共通語である英語の学習方法について学ぶ。

第14回：**Second Language Acquisition**

外国語の習得に影響を与える要素、習得の過程について理解し、外国語の習得のされ方について学ぶ。

第15回：**Conclusion**

本授業で学習してきた内容である、言語学をもとにして文の構造や文の意味など英語学についてのまとめを行う。

定期試験

テキスト

井上逸平 (2015) 『グローバルコミュニケーションのための英語学概論』慶應義塾大学出版会

参考書・参考資料等

- ・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）
- ・西光義弘（編）（2015）『日英語対照による英語学概論』くろしお出版。
- ・影山太郎、ブレンド・デ・シェン、日比谷潤子、ドナ・タツキ（2004）『First Steps in English Linguistics』第2版 くろしお出版
- ・長谷川瑞穂（編著）（2014）『はじめての英語学〈改訂版〉』研究社
- ・Victoria Fromkin, Robert Rodman and Nina Hyams（2018）*An Introduction to Language, 11th edition*. Cengage Learning.

学生に対する評価

定期試験（50%）、クイズ（30%）、授業に対する取り組み（20%）

授業科目名： 第二言語習得論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 細井洋伸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>●授業のテーマ：第二言語習得研究の知見を理解し、その知見を英語学習および教育にどのように応用できるかを考察する。</p> <p>●到達目標：第二言語習得の基本的概念を理解し、英語の特徴を踏まえたうえで、第二言語習得理論を英語学習および教育に応用できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、第二言語習得における基本的な概念や研究について学ぶ。また、各段階において、自分の英語学習経験もふまえ、第二言語習得研究の知見をどのように授業や学習活動に取り入れられるかを考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 授業の進め方、授業内で用いるテキストの使い方などについて説明を行う。</p> <p>第2回：第二言語習得研究とは 第二言語習得の分野で必要な基本用語や特有な考え方について学ぶ。</p> <p>第3回：母語習得についての2つの理論 母語習得を説明する2つの異なる理論を紹介し、コミュニケーションの大切さを考える。</p> <p>第4回：転移とリタラシー 私たちの母語と第二言語がどのように影響を与えあうのかについて考える。</p> <p>第5回：第二言語習得研究：認知的アプローチの時代 第二言語習得研究の初期の歴史、認知的アプローチとエコロジカルアプローチについて学ぶ。</p> <p>第6回：第二言語学習についての2つの見方 第二言語学習について、複数の視点から異なった見方ができることを学ぶ。</p> <p>第7回：第二言語習得研究と外国語教育（1）：タスク中心アプローチをめぐって 外国語教育法の変遷、そして第二言語習得研究の成果から生まれたタスク中心アプローチについて学ぶ。</p> <p>第8回：第二言語習得研究と外国語教育（2）：CLILとは 教科科目の内容の学習と外国語の学習を組み合わせた学習指導方法として注目を集めているCLIL（内容言語統合型学習）について学ぶ。</p> <p>第9回：第2回から第8回までの授業の内容のまとめ</p>			

第2回から第8回までの授業の内容のまとめを行うとともに、自分たちの英語学習の経験を振り返りながら、第2回から第8回までに学んだ内容について議論を行う。

第10回：外国語適正とパーソナリティ

学習者の外国語適正と性格の第二言語習得に与える影響について考える。

第11回：第二言語動機づけ

第二言語の発達に大きな影響を与える動機づけについて、どのような動機づけを持てば英語学習を継続させていけるかを考える。

第12回：臨界期仮説と児童英語教育

子どもの英語教育を取り上げ、早期英語教育の第二言語習得に対する効果、影響を考える。

第13回：第二言語習得の新しい考えかた：複雑系理論アプローチ

英語力の伸びの変化の仕方について、複雑系理論の観点から考えていく。

第14回：テクノロジーと第二言語習得

現代のデジタルツールやアプリケーションの使用が第二言語習得に与える影響について探る。

第15回：第10回から第14回までの授業の内容のまとめ

第10回から第14回までの授業の内容のまとめを行うとともに、自分たちの英語学習の経験を振り返りながら、第10回から第14回までに学んだ内容について議論を行う。

定期試験

テキスト

- ・馬場今日子・新多了（2016）『はじめての第二言語習得論講義』大修館書店

参考書・参考資料等

- ・白井恭弘（2023）『英語教師のための第二言語習得論入門 改訂版』大修館書店
- ・廣森友人（2023）『改訂版 英語学習のメカニズム—第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』大修館書店

学生に対する評価

- ・定期試験（40%）、クイズ（30%）、授業に対する取り組み（課題、リアクションペーパー等）（30%）

授業科目名： 英語学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 細井洋伸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>●授業のテーマ：日本語との比較を通じて、英語を学習・教授するためのポイントについて理解し、授業内容への応用に繋げる。</p> <p>●到達目標： これまでに学んできた英語学の知見を日本語と比較から音声の仕組みや文法についての理解を深め、英語科教育において応用し、学習法・教授法と結び付けて論じることができる。</p>			
授業の概要			
●授業の概要：本授業では、日本語と英語の比較を通じて、英語学の知識を利用した英語教育のための教材づくりの基礎を理解し、プレゼンテーションによる報告によって議論を行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
授業の進め方、授業内で用いるテキストの使い方などについて説明を行う。			
第2回：文の構造と主語①：日本語の「は」、「が」と英語の主語			
日本語の主語（は）、主語（が）と英語の主語の違いについて学ぶ。			
第3回：文の構造と主語②：談話的な観点から見た日本語と英語の主語			
談話的な観点から日本語と英語の主語の違いについて学ぶ。			
第4回：動詞のアスペクト①：動詞の分類方法			
日本語と英語における動詞の多様な分類方法について学ぶ。			
第5回：動詞のアスペクト②：日英比較			
日英での動詞の分類方法の違いから、英語学習の方法の違いについて学ぶ。			
第6回：時制・アスペクト①：現在形と過去形			
現在形と過去形に対する日本と英語の違いを分析し、時制とアスペクトについて学ぶ。			
第7回：時制・アスペクト②：進行形			
進行形に対する日本と英語の違いを分析し、時制とアスペクトについて学ぶ。			
第8回：日本語と英語の語順比較			
統語的観点、機能文法的観点から日本語と英語の語順の違いについて学ぶ。			
第9回：情報構造と構文			
情報構造と構文の関係の観点から、日本語と英語の違いについて学ぶ。			
第10回：受動態に関する比較			

日本語話者と英語話者での受け身文に関する文法知識と性質の違いについて学ぶ。

第1 1回：「する」型言語と「なる」型言語

英語と日本語の表現方法の違いを、「する」型言語と「なる」型言語という観点からまなぶ。

第1 2回：直示

英語と日本語の直示表現の特質の違いについて学ぶ。

第1 3回：コミュニケーション・ストラテジー

円滑なコミュニケーションのための他者への配慮などのストラテジーについて学ぶ。

第1 4回：プレゼンテーション

これまでの日本語と英語の違いに関する内容について理解し、プレゼンテーションを行う。

第1 5回：Conclusion

本授業で学習してきた内容である、日本語と英語の言語的差異についてのまとめを行う。

定期試験

テキスト

必要に応じて資料配付

参考書・参考資料等

- ・ Thomas Hofmann and Taro Kageyama (1986) *10 Voyages in the Realms of Meaning* Kuroshio
- ・ 安藤貞雄、澤田治美（編）（2001）『英語学入門』開拓社
- ・ 水谷信子（1985）『日英比較話ことばの文法』くろしお出版

学生に対する評価

定期試験（50%）、プレゼンテーション（30%）、授業に対する取り組み（20%）

授業科目名： 英語学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 細井洋伸 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 ●科目のテーマ：英語学的知見を深く理解し、英語科教育へ応用できる力を養う。 ●到達目標：英語学的知見（英文法、またそれと関係する音声や歴史的変遷）についての理解を深め、英語学の知見を英語科教育（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）へ応用できる力を養う。			
授業の概要 授業の概要：本授業では、英語学的知見、特に英文法についての理解を音声や歴史的変遷とも絡めながら深める。さらに、その知識の英語の授業への応用方法を考え、それについてプレゼンテーションを行うことで、英語学の知見を英語科教育へ応用できる力を養う			
授業計画 第1回：オリエンテーション 授業の進め方、授業内で用いるテキストの使い方などについて説明を行う。 第2回：可算・不可算名詞 日本語にはなく、日本人英語学習者にとって習得の難しい可算・不可算名詞の意味、使い方について、形式文法、機能文法や認知文法的観点から学ぶ。 第3回：冠詞 日本語にはなく、日本人英語学習者にとって習得の難しい冠詞の意味、使い方について、機能文法や認知文法的観点から学ぶ。 第4回：時間表現①：現在形、現在進行形 英語の動詞の分類との関係を理解しながらを、英語の現在形と現在進行形の意味、使い方について、形式文法、機能文法や認知文法的観点から学ぶ。 第5回：時間表現②：完了形 日本語にはない英語の現在完了形を、過去形と対比させながら、その意味、使い方について、形式文法、機能文法や認知文法的観点から学ぶ。 第6回：時間表現③：未来を表す表現 英語にはいくつかの未来の意味を表す表現形式があるが、それらの異なる形式が表す意味およびその違いについて、形式文法、機能文法や認知文法的観点から学ぶ。 第7回：法助助詞 事態の成立の可能性について話しての判断を表す「法助動詞」について、機能文法や認知文法			

的観点から学ぶ。

第8回：仮定法

仮定法で使用されている動詞が過去形や過去分詞形ある点に注目し、仮定法の意味について、機能文法や認知文法的観点から学ぶ。

第9回：使役表現

英語における使役動詞について、その意味、使用方法の違いを機能文法や認知文法的観点から学ぶ。

第10回：前置詞・句動詞

どの前置詞にもさまざまな意味があるが、その様々な意味も前置詞の基本イメージから派生されると考える認知文法的観点から前置詞の意味を考えていく。また、句動詞の意味を前置詞の観点から考えていく。

第11回：談話標識

ある発話が、先行する発話に対してどの様に解釈されるかについて指令を与える「談話標識」について、機能文法の観点から学ぶ。

第12回：多義性

英語の語や構文の多義性について、その多義性が生じる理由について、機能文法や認知文法的観点から学ぶ。

第13回：歴史的意味拡張、文法化

歴史的な観点から、英語における語の意味の拡張、文法化について学ぶ。機能文法や認知文法的観点から学ぶ。

第14回：プレゼンテーション

この授業で学んできた英語学に関する内容について理解し、その知識をどの様に英語科教育に応用できるかについてプレゼンテーションを行う。

第15回：Conclusion

本授業で学習してきた内容を英語学の内容について、英語科教育への応用の観点から、まとめを行う。

定期試験

テキスト

野村益寛（2020）『英文法の考え方：英語学習者のための認知英文法講義』開拓社

参考書・参考資料等

- ・久野暲、高見健一（2004）『謎解きの英文法：冠詞と名詞』くろしお出版
- ・久野暲、高見健一（2009）『謎解きの英文法：単数か複数か』くろしお出版
- ・久野暲、高見健一（2021）『謎解きの英文法：動詞』くろしお出版
- ・久野暲、高見健一（2004）『謎解きの英文法：時の表現』くろしお出版
- ・久野暲、高見健一（2013）『謎解きの英文法：使役』くろしお出版
- ・大西泰斗、ポール マクベイ（1996）『ネイティブスピーカーの前置詞』研究社

・吉村公宏（2004）『はじめての認知言語学』研究社

学生に対する評価

定期試験（50%）、プレゼンテーション（30%）、授業に対する取り組み（20%）

授業科目名： 英語文学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鵜生川恵美子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
イギリス文学史を概観し、各時代区分における代表的な文学作品の内容と様々な英語表現および作品で描かれている国や地域の文化について理解している。それらの知識を身につけ、中学・高等学校における外国語（英語）の授業に生かすことができる。			
授業の概要			
イギリスの古英語時代から現代までの文学史の概要を講義しながら、時代ごとのイギリスの代表的な作家の作品を原文および翻訳も活用しながら講読する。様々な英語表現の理解に加え、作品で描かれている国や地域の文化についての理解も深め、英語教員として必要な文学に関する知識を習得できるようにする。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：イギリス文学の概説			
第2回：古・中英語の文学～エリザベス朝時代の文学：チョーサー、スペンサー、マーロー			
第3回：シェイクスピアの『ハムレット』を読む			
第4回：清教徒革命期～王政復古の時代：ダン、ミルトン、バニヤン、ポープ、スウィフト			
第5回：デフォーの『ロビンソン・クルーソー』を読む			
第6回：小説の誕生：リチャードソン、フィールドング、ジョンソン、ブレイク			
第7回：オースティンの『高慢と偏見』を読む			
第8回：ロマン派詩人：コウルリッジ、キーツ、シェリー、バイロン			
第9回：ワーズワースの『抒情詩集』を読む			
第10回：ヴィクトリア朝期の文学：ディケンズ、G・エリオット、ハーディ、ワイルド			
第11回：ブロンテの『ジェイン・エア』を読む			
第12回：20世紀後半～現代：T・S・エリオット、ジョイス、ウルフ、ローレンス、マードック			
第13回：ウルフの『灯台へ』を読む			
第14回：イギリスの児童文学：キャロルからJ・K・ローリングまで			
第15回：キャロルの『不思議の国のアリス』を読む			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
神山妙子編著『はじめてまなぶ イギリス文学史』（ミネルヴァ書房、2020年）			

参考書・参考資料等

- ・小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）
- ・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）

その他にも授業中に関連資料を適宜配布する。

学生に対する評価

小テスト（50％） 授業への取り組み（30％） 課題提出（20％）

授業科目名： 英語文学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鶴生川恵美子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
アメリカ文学史を概観し、各時代区分における代表的な文学作品の内容と様々な英語表現および作品で描かれている国や地域の文化について理解している。それらの知識を身につけ、中学・高等学校における外国語（英語）の授業に生かすことができる。			
授業の概要			
アメリカの植民地時代から現代までの文学史の概要を講義しながら、時代ごとのアメリカの代表的な作家の作品を原文および翻訳も活用しながら講読する。様々な英語表現の理解に加え、作品で描かれている国や地域の文化についての理解も深め、英語教員として必要な文学に関する知識を習得できるようにする。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：アメリカ文学の概説			
第2回：植民地時代～独立期の文学：フランクリン、ブラウン			
第3回：アーヴィングの「リップ・ヴァン・ウインクル」を読む			
第4回：アメリカ・ルネッサンス：エマソン、ソロー、ホイットマン、ホーソン、ポー			
第5回：メルヴィルの『白鯨』を読む			
第6回：リアリズムと自然主義の文学：ジェイムズ、クレイン、ショパン、キャザー			
第7回：トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む			
第8回：「失われた世代」の文学：フォークナー、フィッツジェラルド、スタインベック			
第9回：ヘミングウェイの『老人と海』を読む			
第10回：第二次大戦後の文学：カポーティ、オコナー、ポーター、メイラー、サリンジャー			
第11回：カポーティの『ティファニーで朝食を』を読む			
第12回：ポストモダニズムの文学：ヴォネガット、アーヴィング、カーヴァー、			
第13回：ウォーカーの『カラー・パープル』を読む			
第14回：アメリカ・カナダの児童文学：ワイルダー、バーネット、ボウム、モンゴメリー			
第15回：オルコットの『若草物語』を読む			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
板橋好枝・高田賢一編著『はじめて学ぶアメリカ文学史』（ミネルヴァ書房、2013年）			

参考書・参考資料等

- ・小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）
- ・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）

その他にも授業中に関連資料を適宜配布する。

学生に対する評価

小テスト（50%） 授業への取り組み（30%） 課題提出（20%）

授業科目名： 英語文学演習 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 鶴生川恵美子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>英米の代表的な文学作品を精読することによって、文学作品における様々な英語表現を学ぶとともに、作品で描かれている国や地域の文化についての理解も深める。授業を通して得られた文学作品に関する知識を中学校および高等学校における外国語（英語）の授業において活用できるようにする。</p>			
授業の概要			
<p>19世紀から20世紀の英米の代表的な作家による短編小説を精読する。作者や作品で描かれている国や地域の文化および様々な英語表現について学び、加えて、作品のテーマなどについてディスカッションを通してより理解を深め、総合的に読解力を高める。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション：授業で扱う文学作品に関する概説			
第2回：‘The Black Cat’ (1843) by Edgar Allan Poe ① 作者および作品の概説と発表			
第3回：‘The Black Cat’ ② 発表			
第4回：‘The Black Cat’ ③ 発表とディスカッションおよび補足説明			
第5回：‘The Birth-mark’ (1843) by Nathaniel Hawthorne ① 作者および作品の概説と発表			
第6回：‘The Birth-mark’ ② 発表			
第7回：‘The Birth-mark’ ③ 発表とディスカッションおよび補足説明			
第8回：‘Baker’s Bluejay Yarn’ (1880) by Mar Twain ① 作者および作品の概説と発表			
第9回：‘Baker’s Bluejay Yarn’ ② 発表			
第10回：‘Baker’s Bluejay Yarn’ ③ 発表とディスカッションおよび補足説明			
第11回：‘The Happy Prince’ (1888) by Oscar Wilde ① 作者および作品の概説と発表			
第12回：‘The Happy Prince’ ② 発表とディスカッションおよび補足説明			
第13回：‘The Fly’ (1922) by Katherine Mansfield ① 作者および作品の概説と発表			
第14回：‘The Fly’ ② 発表			
第15回：‘The Fly’ ③ 発表とディスカッションおよび補足説明			
定期試験			
テキスト			
プリントを配布する。			

参考書・参考資料等

授業内で適宜提示する。

学生に対する評価

定期試験 (50%) 授業への取り組み (30%) 課題提出 (20%)

授業科目名： 英語文学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鶴生川恵美子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>英米およびカナダの代表的な文学作品を精読することによって、文学作品における様々な英語表現を学ぶとともに、作品で描かれている国や地域の文化についての理解も深める。授業を通して得られた文学作品に関する知識を中学校および高等学校における外国語（英語）の授業において活用できるようにする。</p>			
授業の概要			
<p>19世紀から20世紀の英米及びカナダの代表的な作家による短編小説および小説の抜粋を精読する。作者や作品で描かれている国や地域の文化および様々な英語表現について学び、加えて、作品のテーマなどについてディスカッションを通してより理解を深め、総合的に読解力を高める。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション：授業で扱う文学作品に関する解説			
第2回：‘A Summer’s Reading’ (1956) by Bernard Malamud ① 作者および作品の概説と発表			
第3回：‘A Summer’s Reading’ ② 発表とディスカッション			
第4回：‘A Summer’s Reading’ ③ 発表とディスカッションおよび補足説明			
第5回：‘A Shocking Accident’ (1957) by Graham Greene ① 作者および作品の概説と発表			
第6回：‘A Shocking Accident’ ② 発表とディスカッション			
第7回：‘A Shocking Accident’ ③ 発表とディスカッションおよび補足説明			
第8回：Animal Farm (1945) by George Orwell, Chapter 2 ① 作者および作品の概説と発表			
第9回：Animal Farm ② 発表とディスカッション			
第10回：Animal Farm ③ 発表とディスカッション			
第11回：Animal Farm ④ 発表とディスカッションおよび補足説明			
第12回：Anne of Green Gables (1908) by L. M. Montgomery, Chapter 1			
① 作者および作品の概説と発表			
第13回：Anne of Green Gables ② 発表とディスカッション			
第14回：Anne of Green Gables ③ 発表とディスカッション			
第15回：Anne of Green Gables ④ 発表とディスカッションおよび補足説明			
定期試験			

テキスト

プリントを配布する

参考書・参考資料等

授業中に適宜提示する。

学生に対する評価

定期試験 (50%) 授業への取り組み (30%) 課題提出 (20%)

授業科目名： Reading & Vocabulary I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： レイモンド フーゲンブーム 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>This course is to develop course takers' English reading skill and vocabulary, so that they will be able to: (1) read extensive reading (ER) books regularly in English and write regular ER response journals in English; (2) understand relationships between English spelling and pronunciation; (3) know how to use English dictionaries and other linguistic resources; (4) gain skill at a variety of English vocabulary learning strategies; (5) become sensitive to inferential demands in English; (6) learn how to identify topics of English paragraphs; and (7) nurture the habit of reading quickly.</p> <p>本授業は、履修者の英語の読む力と語彙を育成するもので、以下を到達目標とする。(1)英語で多読を定期的に行い、英語でレスポンス・ジャーナルを随時書くことができる。(2)英語の綴りと発音の関係を理解できている。(3)英語の辞書や他の言語に関わる資料の使い方を知っている。(4)多岐にわたる英語の語彙学習の方策的技能を身につけている。(5)英語の推論の必要性に敏感になっている。(6)英語の段落の話題の識別方法を習得している。(7)英文を速読する習慣を身につけている。</p>			
授業の概要			
<p>Course takers do regular extensive reading and write journals; learn various vocabulary acquisition strategies, learn paragraph structure, and practice speedreading.</p> <p>履修者は、定期的に英語の多読を行い、ジャーナルを書く。また、様々な語彙習得の方略と英語の段落構造を学ぶとともに、英語の速読を練習する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：Introduction to Course & Extensive Reading (ER) & Handwritten ER Journals 授業の紹介、多読と手書きの多読ジャーナルの導入</p> <p>第2回：Scanning (Warm-up) / Spelling-Pronunciation スキヤニング (ウォームアップ)、綴りと発音</p> <p>第3回：Warm-up / Parts-of-Speech / Previewing Strategies ウォームアップ、品詞、下見の方略</p> <p>第4回：Warm-up / Dictionaries & Resources / Previewing Passages ウォームアップ、辞書と資料、文章の下見</p> <p>第5回：Warm-up / Intro to Speedreading (Chunking & Automatic Word Recognition) ウォームアップ、速読の導入 (チャンキング、自動語彙認識)</p>			

- 第6回 : Warm-up / Intro to Inferencing / Speedread Unit 1
ウォームアップ、推測の導入、速読 ユニット1
- 第7回 : Warm-up / Selecting Vocabulary to Learn / Inference Dialogues / Speedread Unit 2
ウォームアップ、学習する語彙の選択、対話での推測、速読 ユニット2
- 第8回 : Warm-up / Determine Vocab. from Context / Inference Fiction / Speedread Unit 3
ウォームアップ、文脈からの語彙の決定、フィクションでの推測、速読 ユニット3
- 第9回 : Warm-up / Identify Topics / Inference Non-Fiction / Speedread Unit 4
ウォームアップ、トピックの識別、ノンフィクションでの推測、速読 ユニット4
- 第10回 : Vocab Card Project Intro / Speedread Unit 5
語彙カード・プロジェクトの導入、速読 ユニット5
- 第11回 : Vocab Cards Set 1 / Topics of Word Sets / Speedread Unit 6
語彙カードセット1、単語セットのトピック、速読 ユニット6
- 第12回 : Vocab Cards Set 2 / What is a Paragraph? / Speedread Unit 7
語彙カードセット2、段落とは?、速読 ユニット7
- 第13回 : Vocab Cards Set 3 / Identify Paragraph Topics / Speedread Unit 8
語彙カードセット3、段落のトピックの識別、速読 ユニット8
- 第14回 : Vocab Cards Set 4 / Write Paragraph Topics / Speedread Unit 9
語彙カードセット4、段落のトピックを書く、速読 ユニット9
- 第15回 : Writing Composition Presentation / Speedread Unit 10
発表用の作文を書く、速読 ユニット10

Final Exam

定期試験

テキスト

Materials will be provided in class.

資料を授業で配布する。

参考書・参考資料等

To be announced in class.

適宜、授業で指示する。

学生に対する評価

Extensive Reading (ER) 25% 多読 25%

Handwritten ER Journals 25% 手書きの多読ジャーナル 25%

Vocabulary Card Project 20% 語彙カード・プロジェクト 20%

Written Composition 10% 作文 10%

Activity Participation & Engagement 10% 活動への参加と積極性 10%

Final Exam 10% 定期試験 10%

授業科目名： Reading & Vocabulary II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： レイモンド フーゲンブーム 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>This course is to develop course takers' English reading skill and vocabulary, so that they will be able to: (1) read extensive reading (ER) books regularly in English and write regular ER response journals in English; (2) become aware of morphological structures of English vocabulary; (3) acquire strategic skills to learn semantic units; (4) develop the ability to "think" in English; identify main and supporting ideas in English paragraphs; (5) master knowledge about rhetorical structures; and (6) nurture the habit of reading quickly.</p> <p>本授業は、履修者の英語の読む力と語彙を育成するもので、以下を到達目標とする。(1)英語で多読を定期的に行い、英語でレスポンス・ジャーナルを随時書くことができる。(2)英語の語彙の形態構造を認識できる。(3)意味の単位を学ぶ方略的な技能を習得している。(4)英語で「考える」能力を向上できている。(5)修辞構造についての知識を習得している。(6)英文を速読する習慣を身につけている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>Course takers do regular extensive reading and write journals; learn various vocabulary acquisition strategies, learn paragraph structure, and practice speedreading.</p> <p>履修者は、定期的に英語の多読を行い、ジャーナルを書く。また、様々な語彙習得の方略と英語の段落構造を学ぶとともに、英語の速読を練習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Course Intro & Re-Intro to Extensive Reading (ER) & Handwritten ER Journals. 授業の紹介、多読と手書きの多読ジャーナルの再導入</p> <p>第2回：Thinking in Eng (Warm-up) / Word Parts (Roots) / Main Ideas of Paragraphs 英語で考える (ウォームアップ)、単語の部位 (ルート)、段落のメイン・アイディア</p> <p>第3回：Warm-up / Word Parts (Prefix) / Identify Main Idea of Paragraphs / Speedread Unit 11 ウォームアップ、単語の部位 (接頭辞)、段落のメイン・アイディアの識別、速読 ユニット11</p> <p>第4回：Warm-up / Word Parts (Suffix) / Write Main Idea of Paragraphs / Speedread Unit 12 ウォームアップ、単語の部位 (接尾辞)、段落のメイン・アイディアを書く、速読 ユニット12</p> <p>第5回：Warm-up / Word Families / Supporting Facts & Ideas / Speedread Unit 13 ウォームアップ、単語の家族、事実や考えをサポートする、速読 ユニット13</p>			

- 第6回 : Warm-up / Types of Phrases / Examples, Explanations, & Statistics / Speedread Unit 14
ウオームアップ、句の種類、例・説明・統計、速読 ユニット14
- 第7回 : Warm-up / Selecting Phrases to Learn / Statistics & Visuals / Speedread Unit 15
ウオームアップ、学習する句を選ぶ、統計と描写、速読 ユニット15
- 第8回 : Warm-up / What are Collocations? / Intro to Patterns / Speedread Unit 16
ウオームアップ、コロケーションとは?、パターンの導入、速読 ユニット16
- 第9回 : Warm-up / Pronouns & Referents / Patterns (Listing) / Speedread Unit 17
ウオームアップ、代名詞と指示対象、パターン (リスニング)、速読 ユニット17
- 第10回 : Acad.Vocab Card Project Intro / Speedread Unit 18
アカデミック語彙カード・プロジェクト、速読 ユニット18
- 第11回 : Acad.Vocab Cards Set 1 / Patterns (Comparison) / Speedread Unit 19
アカデミック語彙カード セット1、パターン (比較)、速読 ユニット19
- 第12回 : Acad.Vocab Cards Set 2 / Patterns (Single Cause-Effect) / Speedread Unit 20
アカデミック語彙カード セット2、パターン (比較)、速読 ユニット20
- 第13回 : Acad.Vocab Cards Set 3 / Patterns (Problem Solutions)
アカデミック語彙カード セット3、パターン (問題解決)、速読 ユニット20
- 第14回 : Acad.Vocab Cards Set 4 / Patterns (Narrative)
アカデミック語彙カード セット4、パターン (物語)
- 第15回 : Writing Composition Presentation / Patterns (Descriptive/Definitive)
発表用作文の執筆、パターン (記述、定義)

Final Exam

定期試験

テキスト

Materials will be provided in class.

資料を授業で配布する。

参考書・参考資料等

To be announced in class.

適宜、授業で指示する。

学生に対する評価

Extensive Reading (ER) 25% 多読 25%

Handwritten ER Journals 25% 手書きの多読ジャーナル 25%

Academic Vocabulary Card Project 20% アカデミック語彙カード・プロジェクト 20%

Written Composition 10% 作文 10%

Activity Participation & Engagement 10% 活動への参加と積極性 10%

Final Exam 10% 定期試験 10%

授業科目名： Listening & Speaking I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： レイモンド フーゲンブーム 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>This course is to develop course takers' listening and speaking skills in English. They are able to: (1) audio-record spoken English fluency journals that respond to extensive listening texts; (2) audio-record English pronunciation journals; (3) tell stories in English with/without prompts; and (4) write and perform skits in English that demonstrate accurate usage of English language within a chosen context.</p> <p>本授業は、履修者の英語の聞く・話す技能を育成するもので、以下を到達目標とする。履修者は、(1) 多聴で聞いたものについてのリスパンスの録音報告で、流暢な英語で話すことができる。(2) 録音報告で、英語の発音が正しくできている。(3) 指示や刺激のありなしに関わらず、英語で話をするができる。(4) 英語が任意の場面で正しく使えることを明確に示すような英語の寸劇を、書いて演じることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>Course takers do regular extensive listening and record extensive listening journals; record English pronunciation journals; complete two storytelling projects (with/without prompts); and produce and perform an English language skit.</p> <p>履修者は、多聴を行いその報告を英語で録音する。また、英語の発音練習報告を録音する。加えて、指示や刺激のありなしの2つの物語プロジェクトを行うとともに、英語の寸劇を作って演じる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Course Introduction 授業の紹介</p> <p>第2回：Introduction of Extensive Listening/Audio Journal Project 多聴とオーディオ・ジャーナルプロジェクトの導入</p> <p>第3回：Introduction of Pronunciation Journal Project 発音ジャーナル・プロジェクトの導入</p> <p>第4回：Storytelling with Prompts 指示・刺激があるストーリー・テリング</p> <p>第5回：Introduction of Storytelling Project ストーリー・テリング・プロジェクトの導入</p> <p>第6回：Preparing a Story ストーリー制作</p> <p>第7回：Editing a Story</p>			

<p>ストーリーの編集</p> <p>第8回 : Practicing a Story</p> <p> ストーリーの練習</p> <p>第9回 : Telling a Story</p> <p> ストーリー・テリング</p> <p>第10回 : Introduction of Skit Project</p> <p> スキット・プロジェクトの導入</p> <p>第11回 : Writing a Script</p> <p> スキットのスク립トの執筆</p> <p>第12回 : Editing a Script</p> <p> スキットのスク립トの編集</p> <p>第13回 : Practicing a Skit</p> <p> スキットの練習</p> <p>第14回 : Performing a Skit: First Half</p> <p> スキットの発表 : 前半</p> <p>第15回 : Performing a Skit: Second Half</p> <p> スキットの発表 : 後半</p> <p>Final Exam</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>Materials will be provided in class.</p> <p>資料を授業で配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>To be announced in class.</p> <p>適宜、授業で指示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>Extensive Listening Audio Journals 20% 多聴、オーディオ・ジャーナル 20%</p> <p>Pronunciation Journals 20% 発音ジャーナル 20%</p> <p>Storytelling w/Prompts 10% 指示・刺激ありのストーリー・テリング 10%</p> <p>Storytelling 20% ストーリー・テリング 20%</p> <p>Skit Writing & Performance 20% スキット作り・実演 20%</p> <p>Final Exam 10% 定期試験 10%</p>

授業科目名： Listening & Speaking II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： レイモンド フーゲンブーム 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>This course is to develop course takers' listening and speaking skills in English. They are able to: (1) audio-record spoken English fluency journals that respond to extensive listening texts;(2) audio-record English pronunciation journals;(3) perform research, design slides, and deliver a slide presentation in English;(4) engage in easy debate in English; and (5) contribute to a group podcast in English.</p> <p>本授業は、履修者の英語の聞く・話す技能を育成するもので、以下を到達目標とする。</p> <p>(1) 多聴で聞いたものについてのリスパンスの録音報告で、流暢な英語で話すことができる。(2) 録音報告で、英語の発音が正しくできている。(3) 研究を行い、スライドをデザインし、それを用いたプレゼンテーションを英語で行うことができる。(4) 基礎的なディベートを行うことができる。(5) グループでの英語のポッドキャストに貢献できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>Course takers do regular extensive listening and record extensive listening journals; record English pronunciation journals; produce and deliver an English slide presentation; engage in easy debate in English; and contribute to an English language podcast.</p> <p>履修者は、多聴を行いその報告を英語で録音する。また、英語の発音練習報告を録音する。加えて、英語でスライドを制作して発表するとともに、基礎的なディベートと英語でのポッドキャストを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Course Introduction 授業の紹介</p> <p>第2回：Re-Introduction of Extensive Listening/Audio Journal Project 多聴とオーディオ・ジャーナルプロジェクトの再導入</p> <p>第3回：Re-Introduction of Pronunciation Journal Project 発音ジャーナル・プロジェクトの再導入</p> <p>第4回：Introduction of Slide Presentation スライド・プロジェクトの導入</p> <p>第5回：Researching Slide Presentation Topic スライド・プロジェクトのトピック研究</p> <p>第6回：Preparing Slides</p>			

<p>スライド制作</p> <p>第7回 : Slide Presentation Practice スライド発表の練習</p> <p>第8回 : Slide Presentations スライド発表</p> <p>第9回 : Introduction of Debate Project ディベート・プロジェクトの導入</p> <p>第10回 : Easy Debate やさしいディベート</p> <p>第11回 : Introduction of Podcast Discussion Project ポッドキャスト・ディスカッション・プロジェクトの導入</p> <p>第12回 : Researching Podcast Topic ポッドキャスト・トピックの研究</p> <p>第13回 : Practicing Podcast ポッドキャストの練習</p> <p>第14回 : Podcast Performance: First Half ポッドキャストの実施 : 前半</p> <p>第15回 : Podcast Performance: Second Half ポッドキャストの実施 : 後半</p> <p>Final Exam 定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>Materials will be provided in class. 資料を授業で配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>To be announced in class. 適宜、授業で指示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>Extensive Listening Audio Journals 20% 多聴、オーディオ・ジャーナル 20%</p> <p>Pronunciation Journals 20% 発音ジャーナル 20%</p> <p>Slide Presentation 20% スライド・プレゼンテーション 20%</p> <p>Debate 10% ディベート 10%</p> <p>Podcast 20% ポッドキャスト 20%</p> <p>Final Exam 10% 定期試験 10%</p>

授業科目名： Writing I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： レイモンド フーゲンブーム
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>This course is to develop course takers' English writing skill, and its attainment goals are the following. Course takers: (1) know how to write English academic paragraphs using patterns of organization, and (2) are able to draft, edit, and finalize academic paragraphs in English, using appropriate sentence/paragraph structures to achieve their goals, and designing the paragraphs skillfully into rhetorical patterns of organization.</p> <p>本授業は、履修者の英語の書く技能を育成するもので、以下を到達目標とする。(1) 構成のパターンを用いた英語のアカデミック・ライティングの方法を知っている。(2) 目的を達成するために適切な文や段落の構造を使いながら、また、英語のアカデミック・パラグラフを巧みに修辭的なパターンへと策定しながら、英語のアカデミック・パラグラフの原稿書き・校正・仕上げを行うことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>Course takers learn academic writing formatting conventions, and they draft and develop academic writing compositions in narrative, listing, and procedural forms.</p> <p>履修者は、英語のアカデミック・ライティングのフォーマットの慣例を学び、物語・例示・経緯の形式で原稿を書きながら、アカデミック・ライティングの力を向上させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Course Introduction & Extensive Reading (ER) Introduction 授業の説明と多読の導入</p> <p>第2回：Academic Paragraphs アカデミック・パラグラフ</p> <p>第3回：Formatting and Specifications フォーマットと詳細</p> <p>第4回：Writing an Academic Paragraph アカデミック・パラグラフの執筆</p> <p>第5回：Narrative Paragraphs 物語のパラグラフ</p> <p>第6回：Time Order in Narratives 時系列のパラグラフ</p> <p>第7回：Writing a Narrative Paragraph 物語のパラグラフの執筆</p> <p>第8回：Basic Paragraph Structures</p>			

<p>基本のパラグラフ構造</p> <p>第9回 : Topics, Main Ideas, & Support トピック、メイン・アイディア、サポート</p> <p>第10回 : Writing a Basic Paragraph 基本のパラグラフの執筆</p> <p>第11回 : Logical Division of Ideas 考えの論理的分配</p> <p>第12回 : Focus and Unity 焦点と結束</p> <p>第13回 : Writing a Well-Supported Paragraph サポートが良いパラグラフの執筆</p> <p>第14回 : Process Paragraphs プロセス・パラグラフ</p> <p>第15回 : Writing a Process Paragraph プロセス・パラグラフの執筆</p> <p>Final Exam 定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>Oshima, A., & Hogue, A. (2016). <i>Longman Academic Writing Series 3: Paragraphs to Essays, Fourth Edition</i>. Tokyo: Pearson Japan.</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>To be announced in class. 適宜、授業で指示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>Academic Paragraph 15% アカデミック・パラグラフ 15%</p> <p>Narrative Paragraph 15% 物語のパラグラフ 15%</p> <p>Basic Paragraph 15% 基本のパラグラフ 15%</p> <p>Logical Division of Ideas 15% 考えの論理的分配 15%</p> <p>Process Paragraph 15% プロセスのパラグラフ15%</p> <p>Engagement & Participation 15% 活動・作業への取組み 15%</p> <p>Final Exam 10% 定期試験 10%</p>

授業科目名： Writing II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： レイモンド フーゲンブーム
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>This course is to develop course takers' English writing skill, and its attainment goals are the following. Course takers: (1) know how to write English academic paragraphs and essays using patterns of organization, (2) are able to draft, edit, and finalize academic paragraphs/essays in English, using appropriate sentence/paragraph structures to achieve their goals, and designing the paragraphs skillfully into rhetorical patterns of organization.</p> <p>本授業は、履修者の英語の書く技能を育成するもので、以下を到達目標とする。(1) 構成のパターンを用いた英語のアカデミック・ライティングの方法を知っている。(2) 目的を達成するために適切な文や段落の構造を使いながら、また、英語のアカデミック・パラグラフを巧みに修辭的なパターンへと策定しながら、英語のアカデミック・パラグラフの原稿書き・校正・仕上げを行うことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>Course takers sharpen their academic writing skills. They draft and develop academic writing compositions in definitive, cause/effect, and comparative forms, expanding from paragraph format to essay format.</p> <p>履修者は、英語のアカデミック・ライティングの技能を磨く。履修者は、段落からエッセイの形へと発展させながら、定義・因果関係の形式で原稿を書き、アカデミック・ライティングを進めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Course Introduction & Re-Introduction of Extensive Reading (ER) 授業の紹介と多読の再導入</p> <p>第2回：Definition Paragraphs 定義のパラグラフ</p> <p>第3回：Appositives & Adjective Clauses 同格と形容詞節</p> <p>第4回：Writing a Definition Paragraph 定義のパラグラフの執筆</p> <p>第5回：Cause/Effect Paragraphs 因果関係のパラグラフ</p> <p>第6回：Multiple Causes & Effects 複数の因果関係</p> <p>第7回：Writing a Cause/Effect Paragraphs</p>			

<p>因果関係のパラグラフの執筆</p> <p>第8回 : Comparison/Contrast Paragraphs 比較対照のパラグラフ</p> <p>第9回 : Point-by-Point vs. Block Method ポイントごと 対 ブロックの方法</p> <p>第10回 : Writing a Comparison/Contrast Paragraph 比較対照のパラグラフの執筆</p> <p>第11回 : Essay Organization : Informative Essay エッセイの構成 : 情報提供のエッセイ</p> <p>第12回 : Intro, Body, & Conclusion イントロダクション、本論、結論</p> <p>第13回 : Writing an Informative Essay 情報提供のエッセイの執筆</p> <p>第14回 : Opinion Essays 意見のエッセイ</p> <p>第15回 : Writing an Opinion Essay 意見のエッセイの執筆</p> <p>定期試験 Final Exam</p>
<p>テキスト</p> <p>Oshima, A., & Hogue, A. (2016). <i>Longman Academic Writing Series 3: Paragraphs to Essays, Fourth Edition</i>. Tokyo: Pearson Japan.</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>To be announced in class. 適宜、授業で指示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>Definition Paragraph 10% 定義のパラグラフ 10%</p> <p>Cause/Effect Paragraph 15% 因果関係のパラグラフ 15%</p> <p>Comparison/Contrast Paragraph 15% 比較対照のパラグラフ 15%</p> <p>Information Essay 15% 情報提供のエッセイ 15%</p> <p>Opinion Essay 20% 意見のエッセイ 20%</p> <p>Engagement & Participation 15% 活動・作業への取組み 15%</p> <p>Final Exam 10% 定期試験 10%</p>

授業科目名： Skills-Integrated English Communication I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： レイモンド フーゲンブーム 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>This course is to further develop course takers' English integrated skills, so that they are able to: (1) identify valid issues in universal education, (2) analyze and organize data, (3) design and perform oral slide presentations, (4) write reports on their findings, and (5) hold interactive discussions about their research and conclusions.</p> <p>本授業は、履修者の英語の統合的スキルをさらに向上するもので、以下を到達目標とする。 (1) 普遍的な教育における妥当な問題を認識することができる。(2) データを分析して整理することができる。(3) スライドと用いた英語の口頭発表のデザインをし、発表をすることができる。(4) 発見したことについての報告を書くことができる。(5) 自分の研究と結論についての討論を双方向的に行うことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>Course takers will: Research universal topics about Education; Process data; Design and perform slide presentations; Draft, write, and edit reports on research; and hold panel discussions about topics.</p> <p>受講者は、以下を全て英語で行う。教育に関する普遍的な問題を探し、データを処理し、スライドによる発表をデザインして実施する。研究に関する報告の下書き、執筆、校正を行う。さらに、各種の話題についてのパネルディスカッションを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Course Introduction 授業の紹介</p> <p>第2回：Introduction of Research on Education Issues 教育問題の研究の導入</p> <p>第3回：Research Education Topics 教育の話題の模索</p> <p>第4回：Research Chosen Topic 選んだ話題についての研究</p> <p>第5回：Organize and Analyze Data データの分析と整理</p> <p>第6回：Design Slide Presentation スライド発表のデザイン</p> <p>第7回：Practice Slide Presentation</p>			

<p>スライド発表の練習</p> <p>第8回 : Perform Slide Presentation スライド発表の実施</p> <p>第9回 : Outline Report on Chosen Topic 選んだ話題についての報告の概要</p> <p>第10回 : Write Report Introduction and Background 報告の紹介と背景の執筆</p> <p>第11回 : Write About Research Strategy 研究の方策についての執筆</p> <p>第12回 : Write about Findings and Analysis 発見と分析についての執筆</p> <p>第13回 : Final Editing of Report 報告の最終校正</p> <p>第14回 : Prepare for Discussion on Topic トピックについての討論の準備</p> <p>第15回 : Panel Discussion of Topics 各種トピックについてのパネルディスカッション</p> <p>定期試験</p> <p>Final Exam</p>
<p>テキスト</p> <p>Materials will be provided in class. 資料を授業で配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>To be announced in class. 適宜、授業で指示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>Research 10% 研究 10%</p> <p>Slides 20% スライド 20%</p> <p>Presentation 20% 発表 20%</p> <p>Report 20% 報告 20%</p> <p>Discussion 20% 討論 20%</p> <p>Final Exam 10% 定期試験 10%</p>

授業科目名： Skills-Integrated English Communication II	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： レイモンド フーゲンブーム 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>This course is to further develop course takers' English integrated skills, so that they are able to: (1) able to identify valid issues in English education, (2) analyze and organize data, (3) design and perform oral slide presentations, (4) write reports on their findings, and (5) hold interactive discussions about their research and conclusions.</p> <p>本授業は、履修者の英語の統合的スキルをさらに向上するもので、以下を到達目標とする。 (1)英語教育における妥当な問題を認識することができる。(2)データを分析して整理することができる。(3)スライドと用いた英語の口頭発表のデザインをし、発表をすることができる。(4)発見したことについての報告を書くことができる。(5)自分の研究と結論についての討論を双方向的に行うことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>Course takers will: Research Issues in English Education; Process data; Design and perform slide presentations; Draft, write, and edit reports on research; and hold panel discussions about topics.</p> <p>受講者は、以下を全て英語で行う。英語教育に関する話題を模索し、データを処理し、スライドによる発表をデザインして実施する。研究に関する報告の下書き、執筆、校正を行う。さらに、各種の話題についてのパネルディスカッションを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Course Introduction 授業の紹介</p> <p>第2回：Introduction of Research on Education Issues 教育問題の研究の導入</p> <p>第3回：Research Topics in English Education 英語教育の話題の模索</p> <p>第4回：Research Chosen Topic 選んだ話題についての研究</p> <p>第5回：Organize and Analyze Data データの分析と整理</p> <p>第6回：Design Slide Presentation スライド発表のデザイン</p> <p>第7回：Practice Slide Presentation</p>			

<p>スライド発表の練習</p> <p>第8回 : Perform Slide Presentation スライド発表の実施</p> <p>第9回 : Outline Report on Chosen Topic 選んだ話題についての報告の概要</p> <p>第10回 : Write Report Introduction and Background 報告の紹介と背景の執筆</p> <p>第11回 : Write About Research Strategy 研究の方策についての執筆</p> <p>第12回 : Write about Findings and Analysis 発見と分析についての執筆</p> <p>第13回 : Final Editing of Report 報告の最終校正</p> <p>第14回 : Prepare for Discussion on Topic トピックについての討論の準備</p> <p>第15回 : Panel Discussion of Topics 各種トピックについてのパネルディスカッション</p> <p>定期試験</p> <p>Final Exam</p>
<p>テキスト</p> <p>Materials will be provided in class. 資料を授業で配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>To be announced in class. 適宜、授業で指示する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>Research 10% 研究 10%</p> <p>Slides 20% スライド 20%</p> <p>Presentation 20% 発表 20%</p> <p>Report 20% 報告 20%</p> <p>Discussion 20% 討論 20%</p> <p>Final Exam 10% 定期試験 10%</p>

授業科目名： 異文化理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上原(フーゲンブーム)景子、 細井洋伸、鶴生川恵美子 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>●授業のテーマ：外国語やその背景にある文化の多様性、異文化コミュニケーションのメカニズムについて理解し、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーションにおいて生じた問題に対処しながら、適切にコミュニケーションをおこなえる力を養う。あわせて、英語が使われている国や文化、英語での異文化コミュニケーションへの理解も深める。</p> <p>●到達目標：外国語やその背景にある文化の多様性、異文化コミュニケーションのメカニズムについての知識を習得すること。また、その知識を使って、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーションにおいて生じた誤解の理由が理解できるように、また、その誤解を解決、あるいは未然に防げるようになること。あわせて、英語が使われている国や文化、英語での異文化コミュニケーションへの理解も深めること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>テキストの内容に沿いながら、プレゼンテーション、ディスカッションなども通して、文化の多様性、異文化コミュニケーションのメカニズムについて学ぶとともに、他の文化的背景を持った人との交流を通して、異文化理解、そしてそれについての知識の大切さを理解する。また、中学校、高等学校の英語科教育にあたって、英語の指導だけでなく、英語圏における社会的、文化的背景の指導の重要性も確認する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション コースの概要、授業の進め方について説明する。</p> <p>第2回：Culture and Identity 文化的アイデンティティは「社会化」によって形成されることを学び、一方で移民や両親の出身国が異なる子供のアイデンティティの難しさについてもディスカッションする。</p> <p>第3回：Hidden Culture 世界の人々の価値観と信条、そのような目に見えない「文化」は普段意識されず、直観的に感じるものであることを学ぶ。</p> <p>第4回：Stereotypes ① 「ステレオタイプ」とは異なる文化の人々に対する単純化されたイメージ(思い込み)のこと、また他の国の人に対するステレオタイプの異文化間コミュニケーションへの影響も学ぶ。</p>			

第5回：Stereotypes ②

世界各国の「ステレオタイプ」についてプレゼンテーションをし、前回の授業で学んだ「ステレオタイプ」についての知識を活かし、プレゼンテーションされた「ステレオタイプ」についてディスカッションする。

第6回：Communication Without Words

非言語コミュニケーション(顔の表情、ジェスチャー、仕草、空間の取り方が相手に与えるメッセージ)について学ぶ。

第7回：Diversity

日本文化は人々に同質性を期待する傾向が強いが、ひとつの国にもさまざまな文化が共存していることを学ぶ。

第8回：Perception

同じ行動でも、文化が異なると異なった解釈をされることがあることを学ぶ。

第9回：Communication Style (1)

コミュニケーションのストラテジー(直接/間接的な接し方、沈黙、「場」を読む、等)について学ぶ。

第10回：Communication Style (2)

高コンテクスト文化と低コンテクスト文化、共有する文化・習慣が少ないと、言語への依存が強くなることを学ぶ。

第11回：Deep Culture (Beliefs and Values)

文化によって異なる思想・信条、個人主義や集団主義等について学ぶ。

第12回：Exchange with migrant people living in Japan from abroad

現在仕事等で海外から日本に移り住んでいる人に授業に来てもらい、日本でのカルチャーショック、生活上の問題点などについて話してもらおう。また彼らの日本での経験、困難について、授業で学んだ知識をもとにディスカッションを通して考察していく。

第13回：Hofstede's Cultural Dimensions and Erin Meyer's Culture Map ①

異文化コミュニケーションの代表的な理論の一つである、HofstedeのCultural Dimensionsモデルについて、プレゼンテーション、質疑応答を通して学ぶ。

第14回：Hofstede's Cultural Dimensions and Erin Meyer's Culture Map ②

前回の授業で学んだHofstedeのCultural Dimensionsモデルをもとに、異文化理解の間に生じうる困難、その解決方法についてディスカッションしていく。

第15回：Review

本授業で学習してきた内容の振り返り、まとめを行う。また異文化理解における問題点の解決策の一つとしてのアサーティブ・コミュニケーションの有効性について話し合う。

定期試験

テキスト

・ Joseph Shaules and Juri Abe (1997) *Different Realities: Adventures in Intercultural*

Communication. Nan'un-do.

参考書・参考資料等

- ・小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）
- ・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省）
- ・高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）
- ・Erin Meyer（2014）The Culture Map. Public Affairs.
- ・原沢伊都夫（2013）『異文化理解』研究社
- ・八代京子（2001）『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社

学生に対する評価

- ・定期試験（40%）、クイズ（20%）、プレゼンテーション（20%）授業に対する取り組み（20%）

授業科目名： 中等教科教育法Ⅰ（英語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上原(フーゲンブーム) 景子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>中学・高校における英語の学習指導に関する基本的な知識を習得できている。また、その知識の授業実践への活用方法を考えられ、英語教員として必要な指導力の基礎が身についている。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、中学・高校の学習指導要領(外国語編)の目標・内容および小学校英語教育との関係の中核に、英語教育の歴史、国際語としての英語、国際コミュニケーションのための英語教育について学ぶ。また、学習者の要因と教師の役割、第二言語と外国語の習得の特性、指導法の変遷、コミュニケーション能力の育成についても学びながら、授業の組み立てや実践の基礎となる話題を取り入れ、授業実践に関する知識と基礎的な技能を育成する。</p>			
授業計画			
第1回：本授業の目標・概要・評価方法の説明			
<p style="padding-left: 2em;">学習指導要領の目標と小・中・高の英語教育</p>			
第2回：日本における英語教育、英語教育の歴史、ティーム・ティーチング			
第3回：国際語としての英語、国際コミュニケーションのための英語教育、異文化理解			
第4回：学習指導要領、小学校英語教育、中学校英語教育、高校英語教育			
第5回：学習者の要因（適正要因、認知的要因、他）			
第6回：英語教員の役割、求められる素養			
第7回：小学校における英語教育、英語の文字と音の指導			
第8回：英語教授法の種類と変遷、ICTの活用			
第9回：第二言語習得と英語教育			
第10回：コミュニケーション能力の育成、コミュニケーション能力の要素			
第11回：4技能5領域・技能の統合と言語能力の測定・評価、観点別評価			
第12回：学習到達目標と学習指導案			
第13回：授業実践と英語でのインタラクション			
第14回：文法・語彙等の習得			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年告示）』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編（平成30年告示）』 ・望月昭彦編著(2018)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館 			

・必要に応じて、資料を印刷して配布する。

参考書・参考資料等

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編（平成29年告示）』
- ・文部科学省検定済教科書 中学校英語
- ・文部科学省検定済教科書 高等学校英語
- ・文部科学省検定済教科書 小学校英語

学生に対する評価

授業への取り組みと課題演習（発表・模擬授業等）（70%）、定期試験（30%）

授業科目名： 中等教科教育法Ⅱ（英語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上原(フーゲンブーム)景子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>中学・高校における英語の学習指導に関する基本的な知識を習得できている。また、その知識の授業実践への活用方法を考えられ、英語教員として必要な指導力の基礎が身についている。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、4技能5領域と技能統合の言語活動の指導方法、ティーム・ティーチング、テストと評価、ICTとeラーニングについて学ぶ。また、教科書の仕組みと教材研究の仕方、文法学習、語彙・辞書の指導、授業運営や教育実習についても学びながら、中学校および高校における英語の授業実践で基礎となる知識と技能を育成する。また、英語教師に求められる資質と能力を考え、教育実習に向けた視野を持てるようにする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：本授業の目標・概要・評価方法の説明 学習指導要領の目標と小・中・高の英語教育 第二言語習得、国際語としての英語、異文化理解</p> <p>第2回：英語の音・文字・綴りの指導、音の仕組みの日英対比</p> <p>第3回：リスニングの指導、リエゾン他</p> <p>第4回：スピーキングの指導、イントネーション他</p> <p>第5回：リーディングの指導、文章の種類、まとまりの構造</p> <p>第6回：ライティングの指導、英語の段落、英語の文章の情報構造</p> <p>第7回：技能統合的な言語活動、言語活動の発展と継続性、言語の使用場面と言語の働き</p> <p>第8回：ティーム・ティーチン、JTEとALTの役割</p> <p>第9回：テストと評価、観点別評価、パフォーマンス評価</p> <p>第10回：ICTとeラーニング</p> <p>第11回：教科書、教材研究、学習指導案</p> <p>第12回：語彙と辞書指導、文法の指導、コミュニケーション能力と文法、文法の日英対比</p> <p>第13回：授業運営、英語で行う英語の授業、英語のインタラクション、Classroom English</p> <p>第14回：学習到達目標と授業づくり、学習指導案、学習者の習熟度への対応</p> <p>第15回：まとめ</p>			
定期試験			
テキスト			
<p>・文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年告示）』</p>			

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編（平成30年告示）』
- ・望月昭彦編著(2018)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館
- ・必要に応じて、資料を印刷して配布する。

参考書・参考資料等

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編（平成29年告示）』
- ・文部科学省検定済教科書 中学校英語
- ・文部科学省検定済教科書 高等学校英語
- ・文部科学省検定済教科書 小学校英語

学生に対する評価

授業への取り組みと課題演習（発表・模擬授業等）（70%）、定期試験（30%）

授業科目名： 中等教科教育法Ⅲ（英語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上原(フーゲンブーム)景子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>中学校および高等学校の授業で生徒の実態に応じた適切な指導を展開するための基本的な知識を習得できている。また、その知識を活用し、学習指導案作成・模擬授業・振り返り等を通して、実践に生きる学習指導の基礎的な力が身についている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領における中学・高校の英語教育の目標達成に向け、指導計画立案、目標設定、各時の授業の組立て方について、実践的に学習する。授業で行う様々な言語活動について理解し、それらを支える基礎的な指導技術の習得を目指す。「小・中・高の一貫した英語教育の目標」の理解の下に、中学校で用いられている教科書を使用し、教材研究・指導案作成・模擬授業・授業研究ディスカッション等の活動を多く取り入れて、履修者は主体的に学ぶ。授業実践で重要な項目については、毎回スポットを当てて学習する。これらの学習から、履修者は今後の各自の課題を把握し、基礎的な指導力習得への具体的な方策を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本授業の目標・概要・評価方法の紹介、学習指導要領における目標と指導する内容について 第2回：到達目標、CAN-DOリスト、年間、単元、授業の指導計画・評価計画、教科書の仕組み 第3回：小中高の一貫性と連携、授業のデザイン、指導計画立案、指導案の書き方 第4回：指導案作成の具体 — ねらい、題材観、指導方針、単元の指導計画との関連等を中心として 第5回：指導案作成の具体 — 授業展開と評価を中心として 第6回：1年生前半（基礎）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、 Classroom English スポット：英語で行う英語の授業、Small TalkとInteraction 第7回：1年生中盤（基礎）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、 Classroom English スポット：コミュニケーション活動、帯活動 第8回：1年生後半（基礎）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、 Classroom English スポット：4技能5領域と技能統合的な活動 第9回：2年生前半（基礎）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、</p>			

Classroom English

スポット：教科書の内容理解を中心とした授業に向けて

第10回：2年生中盤(基礎)：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English

スポット：学習形態の工夫、ALTとのティームティーチング、ICTの活用、教員の英語と日本語の使用

第11回：2年生後半(基礎)：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English

スポット：発音指導、音読指導、ノート指導、板書、ワークシート

第12回：3年生前半(基礎)：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English

スポット：即興性・流暢さの育成、パフォーマンステストとルーブリック評価

第13回：3年生中盤(基礎)：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English

スポット：自立的・自律的な学習者を育てる指導、宿題(課題)、辞書指導、多読・多聴指導

第14回：3年生後半(基礎)：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English

スポット：小中高の円滑な接続を考えた言語活動、観点別評価、パフォーマンス評価

第15回：まとめと振り返り

定期試験

テキスト

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年告示)』
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編(平成30年告示)』
- ・文部科学省検定済教科書、中学校外国語用1年生～3年生用のセット1種類
- ・必要に応じて資料を印刷して配布する。

参考書・参考資料等

- ・文部科学省検定済教科書、高等学校外国語用1年生～3年生用
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編(平成29年告示)』
- ・文部科学省検定済教科書、小学校外国語用1年生～3年生用
- ・望月昭彦編著(2018)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館

学生に対する評価

授業への取組状況(20%)、指導案作成・模擬授業(40%)、定期試験(40%)

授業科目名： 中等教科教育法Ⅳ（英語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上原(フーゲンブーム) 景子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 英語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>中学校および高等学校の授業で生徒の実態に応じた適切な指導を展開するための基本的な知識を定着できている。また、その知識を応用し、学習指導案作成・模擬授業・振り返り等を通して、実践に応用できる学習指導の基礎的な力を向上できている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導要領における中学・高校の英語教育の目標達成に向け、指導計画立案、目標設定、各時の授業の組立て方について、実践的に学習する。授業で行う様々な言語活動についての理解をより深め、それらを支える基礎的な指導技術の一層の習得を目指す。「小・中・高の一貫した英語教育の目標」の理解の下に、中学校で用いられている教科書を使用し、教材研究・指導案作成・模擬授業・授業研究ディスカッション等の活動を多く取り入れて、履修者は主体的に学ぶ。授業実践で重要な項目については、毎回スポットを当てて学習する。これらの学習から、履修者は今後の各自の課題を把握し、指導力向上への具体的な方策を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：本授業の目標・概要・評価方法の紹介、学習指導要領における目標と指導する内容について</p> <p>第2回：小中高の一貫性と連携、英語で行う英語の授業、4技能5領域・技能統合的な言語活動</p> <p>第3回：授業の指導計画と立案、指導案作成のポイント、観点別評価、パフォーマンス評価</p> <p>第4回：導入時期：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English スポット：小学校の英語教育と小・中の円滑な接続</p> <p>第5回：1年生前半（応用）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、 Classroom English スポット：中学校と高校の英語教育の現状と課題</p> <p>第6回：1年生中盤（応用）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、 Classroom English スポット：高校の英語教育と中・高の円滑な接続</p> <p>第7回：1年生後半（応用）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、 Classroom English スポット：言語の使用場面と言語の働き</p> <p>第8回：2年生前半（応用）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、</p>			

Classroom English

スポット：受信の語彙と発信の語彙

第9回：2年生中盤（応用）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、

Classroom English

スポット：正確さと即興性・流暢さ

第10回：2年生後半（応用）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English

スポット：単元の導入部分、題材と言語材料

第11回：3年生前半（応用）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English

スポット：教科書の内容理解と各種言語活動

第12回：3年生中盤（応用）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English

スポット：コミュニケーション活動と5領域の統合的活動

第13回：3年生後半（応用）：教材研究、指導案、模擬授業、ディスカッション、Classroom English

スポット：単元の終末部分と振り返り、フィードバック

第14回：まとめと振り返り（1）新学習指導要領の目標達成に向けた英語教育のあり方

第15回：まとめと振り返り（2）今後の各自の指導力向上に向けて

定期試験

テキスト

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年告示）』
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編（平成30年告示）』
- ・文部科学省検定済教科書、中学校外国語用1年生～3年生用のセット1種類
- ・必要に応じて資料を印刷して配布する。

参考書・参考資料等

- ・文部科学省検定済教科書、高等学校外国語用1年生～3年生用
- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編（平成29年告示）』
- ・文部科学省検定済教科書、小学校外国語用1年生～3年生用
- ・望月昭彦編著(2018)『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』大修館

学生に対する評価

授業への取組状況（20%）、指導案作成・模擬授業（40%）、定期試験（40%）

授業科目名： 介護等体験活動	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 1単位	担当教員名： 栗山宣夫
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>介護等体験の目的、意義、内容、方法などについて、基礎的な知識を習得する。「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」に基づき、教員として個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることができる。特別支援学校・学級の児童・生徒及び社会福祉施設の利用者などのさまざまな人々の生き方、相手の立場を尊重した接し方など、互いを尊重した人間同士のコミュニケーションを図ることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本学で中学校教員免許状を取得するためには、原則として社会福祉施設で5日間、特別支援学校あるいは特別支援学級で2日間の介護等体験を課している。本科目は「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の趣旨をふまえ、介護等体験を通じて得た知識や技能を教育現場において活用するための能力育成を目的とし、介護等体験前後の指導を含めて実施するものである。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 介護等体験の目的、意義、実習施設の種類と特色、実習の心構え 第2回：特別支援教育の基礎知識 特別支援学校・特別支援学級の仕組みや役割 第3回：社会福祉施設の利用① 施設の種類と特性、介護等体験で求められる役割 第4回：社会福祉施設の利用② 利用者理解と支援活動で求められる視点・態度 第5回：施設見学および体験準備 実習施設訪問前の事前学習 第6回：社会福祉施設での介護等体験① 日常生活支援活動の補助 第7回：社会福祉施設での介護等体験② コミュニケーション支援 第8回：社会福祉施設での介護等体験③ 利用者との交流活動 第9回：社会福祉施設での介護等体験④ 活動支援やレクリエーションの補助 第10回：社会福祉施設での介護等体験⑤ 課題発見と改善提案 第11回：特別支援学校あるいは特別支援学級での介護等体験① 授業サポートや活動補助 第12回：特別支援学校あるいは特別支援学級での介護等体験② 個別指導と交流活動 第13回：事後指導① 社会福祉施設での体験の振り返りと課題整理 第14回：事後指導② 特別支援学校・学級での体験の振り返りと課題整理 第15回：総括 介護等体験全体を通じた学びの整理と教師としての課題認識 定期試験は実施しない。</p>			

テキスト

教師をめざす人の介護等体験ハンドブック五訂版（現代教師養成研究会編、大修館書店）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

事前指導でのレポート（20%）、介護等体験活動日誌（50%）、最終レポート（30%）

授業科目名： 社会と憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村越芳美
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法における人権というものがどのような権利かについて理解している。 ・社会と生活において日本国憲法がどのように関わっており、如何に重要なものであるかを理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、憲法がどのような「人権」を保障し、そのために政治のしくみはどうあるべきかという問題について、社会生活と日本国憲法を手がかりに考えることを目的とする。</p> <p>日本国憲法が、私たちの「人権」をどのように保障し、またそれが私たちの生活とどのように関わるのかについて、身近で具体的な事例をもとに理解することを目指す。さらに、最近の改憲論議を整理・検討し、私たちの社会と生活の中における日本国憲法の存在意義を考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：憲法を学ぶ必要性と憲法と社会との関係</p> <p>第2回：憲法とは何か</p> <p>第3回：日本国憲法の基本原理について</p> <p>第4回：人権の考え方について</p> <p>第5回：法の下での平等について</p> <p>第6回：精神的自由について</p> <p>第7回：経済的自由について</p> <p>第8回：社会権・参政権について</p> <p>第9回：国会Ⅰ（権力分立と国会の権能）について</p> <p>第10回：国会Ⅱ（国会の地位と国会の組織）について</p> <p>第11回：内閣Ⅰ（議員内閣制と政党との関係について</p> <p>第12回：内閣Ⅱ（内閣の地位と内閣の組織）について</p> <p>第13回：裁判所Ⅰ（裁判所の地位と組織・違憲立法審査権）について</p> <p>第14回：裁判所Ⅱ（裁判所の組織・司法消極主義と司法積極主義）について</p> <p>第15回：地方自治（地方自治の意義と地方公共団体の組織）について</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			

テキスト
最初の講義時に資料を配布する。
参考書・参考資料等
「いまこそ知りたい！みんなでまなぶ日本国憲法」（岩手弁護士会編・著、ポプラ社）
学生に対する評価
レポート（80％）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20％）

授業科目名： 健康と運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 柳川美麿、岡田 悠佑
			担当形態： クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康の維持増進のためのスポーツ・運動方法が身に付く。 ・ スポーツの実践を通して、将来スポーツを継続して行うためにスポーツの楽しさや体を動かすことの喜びを感じることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように自己の現状に応じた体力の向上を図るための知識と技能を修得する。</p> <p>生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための方法や運動が生活の質の改善、健康の保持増進、疾病の予防等に効果をもたらすことについての理解を深める。また、授業の後半では学習した知識をもとに健康の保持増進や体力を高めるためにスポーツ種目を実践する。また、スポーツ実践を通して運動の楽しさや体を動かす喜びを感じることもこの授業の目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：健康の概念と健康寿命</p> <p>第2回：運動・スポーツと健康の維持増進</p> <p>第3回：運動・スポーツと生活習慣病</p> <p>第4回：健康の維持増進のための運動プログラム</p> <p>第5回：生涯スポーツⅠ： スポーツ実践 バレーボール ルールの確認とソフトバレーボールを用いた実践</p> <p>第6回：生涯スポーツⅡ： スポーツ実践 バレーボール 基本的技術（パスとサーブ）とゲーム実践1</p> <p>第7回：生涯スポーツⅢ： スポーツ実践 バレーボール 基本的技術（トスとスパイク）とゲーム実践2</p> <p>第8回：生涯スポーツⅣ： スポーツ実践 バレーボール ゲーム実践3</p> <p>第9回：生涯スポーツⅤ： スポーツ実践 バドミントン ルールの確認と乱打</p>			

第10回：生涯スポーツVI：

スポーツ実践 バドミントン 基本的技術（ショットとサーブ）とシングルス実践

第11回：生涯スポーツVII：

スポーツ実践 バドミントン ダブルス実践

第12回：生涯スポーツVIII：

スポーツ実践 バasketボール 基本的技術（パス・シュート・ドリブル）

第13回：生涯スポーツIX：

スポーツ実践 バasketボール ゲーム実践

第14回：ニュースポーツの実践

ユニホッケー 基本的技術（パス・シュート）とルールの確認

第15回：ニュースポーツの実践

ユニホッケー ゲーム実践

定期試験は実施しない。

テキスト

授業のなかで必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

「新版 図解 スポーツトレーニングの基礎理論」 横浜市スポーツ医科学センター 編
西東社 2014

「基礎から学ぶスポーツトレーニング理論 -心と身体のコディショニングがゼロからわかる！
-」 伊藤マモル 監修 日本文芸社 2009

学生に対する評価

レポート及び実技能力（50%）、取り組み状況（50%）をもとに総合評価する。

授業科目名： 英語 I (基礎)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 鵜生川恵美子、小林徹
			担当形態： クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が高等学校までで習得した英語の知識と技能を確認し、流暢さと即興力を高めている。 ・「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の統合的な言語活動を通して、英語によるコミュニケーションの基礎的な技能を身に着けている。 ・日常的に英語を学習したり、使ったりする習慣を身に着けている。 			
授業の概要			
<p>本授業の目的は、高等学校までで習得した英語の知識と技能を活かし、社会生活や今後の学修で必要となる基礎的な英語のコミュニケーション能力を習得することである。そのため、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の統合的な言語活動を行うとともに、日常的に英語を学習したり、使ったりする習慣を身に着けられるようにする。既習事項で習得が不十分なところを明らかにして定着するとともに、正確さ・流暢性さ・即興力を高めることを意識していく。言語活動ではポートフォリオを作成し、CAN-DOの形式で目標と評価を示し、各自が技能の向上の目標を持ち、振り返れるようにし、ペアワークやグループワークを通じたアクティブ・ラーニングを行っていく。</p>			
授業計画			
第1回：授業の目標と内容の紹介、授業の流れの把握、授業への取り組み方、評価方法の説明			
第2回：Listening, Speaking and Writing on Family and Friends (家族や友人についての聞く・話す・書く活動)			
第3回：Reading on Family and Friends; Listening and Speaking on Culture and Education (家族と友人についての読む活動、文化と教育についての聞く・話す活動)			
第4回：Reading and Writing on Culture and Education; Listening and Speaking on Sports (文化と教育についての読む・書く活動、スポーツについての聞く・話す活動)			
第5回：Reading and Writing on Sports; Discussion/Mini Debate on Work and Studying English (スポーツについての読む・書く活動、仕事や英語学習についてのディスカッション/ミニディベート)			
第6回：Reading and Speaking on Food and Health; Writing Ideas about Food and Health (食べ物と健康についての読む・話す活動、食べ物と健康についての考えを書く活動)			
第7回：Presentation about Food and Health (食べ物と健康についてのプレゼンテーション)			

<p>第8回 : Listening, Speaking and Writing on Clothes and Traveling (衣服と旅行についての聞く・話す・書く活動)</p> <p>第9回 : Reading on Music and Movies; Discussion/Mini Debate on Music and Movies (音楽と映画についての読む活動、音楽と英語についてのディスカッション/ミニディベート)</p> <p>第10回 : Discussion/Mini Debate on the Internet (インターネットについてのディスカッション/ミニディベート)</p> <p>第11回 : Listening and Speaking on Weather and Feelings (天気と感情についての聞く・話す活動)</p> <p>第12回 : Reading and Writing on Government and Politics (政府と政治についての読む・書く活動)</p> <p>第13回 : Listening and Writing on Art (芸術についての聞く・書く活動)</p> <p>第14回 : Sharing Ideas about Future (将来についての考えのシェアリング)</p> <p>第15回 : まとめ</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ English Listening and Speaking Patterns 3 Andrew E. Bennett 著 NAN' UN-DO ・ 5分間 新TOEICテスト・リーディング450 南雲堂
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英和辞典、和英辞典、英英辞典
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験 (70%) 、レポート (30%)</p>

授業科目名： 英語Ⅱ（応用）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鵜生川恵美子、小林徹
			担当形態： クラス分け
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な英語を日本語に訳すことなく理解し、適切な反応ができるようになる。 ・自分の知識にある英語を駆使して、「いま・ここ」で自分が伝えたいことを表現できるようになる。 			
授業の概要			
<p>大学での学習や研究など知的活動だけでなく、現代での社会生活や将来の職業生活において、修得した基本的な英語能力を応用し、運用していくことは必要不可欠なことである。</p> <p>本演習は、英語Ⅰ（基礎）の授業内容を踏まえ、日常生活でよく用いられる表現やニュースなどで実際に使用されている例など、多くの種類の英語表現にふれることにより、日常生活やアカデミックな場面で必要とされる応用的な英語コミュニケーション能力の修得を図ることを目的とする。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の進め方、成績のつけかた、課題、連絡方法などについて） 受講者の英語の理解度を確認する。			
第2回：Unit 1 People：What are you interested in? Listening Tasks, Vocabulary Building （ユニット1 人々：あなたは何に興味があるか？聞く 語彙の組み立て）			
第3回：Unit 1 People：What are you interested in? Speaking Tasks, Pronunciation, Grammar （ユニット1 人々：あなたは何に興味があるか？話す 発音、文法）			
第4回：Unit 1 People：What are you interested in? Student Presentations （ユニット1 人々：あなたは何に興味があるか？学生プレゼンテーション）			
第5回：Unit 2 Friendship：How do you make friends? Listening Tasks, Vocabulary Building （ユニット2 親交：あなたはどのように友人を作るか？聞く 語彙の組み立て）			
第6回：Unit 2 Friendship：How do you make friends? Speaking Tasks, Pronunciation, Grammar （ユニット2 親交：あなたはどのように友人を作るか？話す 発音、文法）			
第7回：Unit 2 Friendship：How do you make friends? Student Presentations （ユニット2 親交：あなたはどのように友人を作るか？学生プレゼンテーション）			
第8回：Unit 3 Education：What makes a good school? Listening Tasks, Vocabulary Building （ユニット3 教育：何によってよい学校を作るか？聞く 語彙の組み立て）			

<p>第9回：Unit 3 Education：What makes a good school? Speaking Tasks, Pronunciation, Grammar (ユニット3 教育：何によってよい学校を作るか？話す 発音、文法))</p> <p>第10回：Unit 3 Education：What makes a good school? Student Presentations (ユニット3 教育：何によってよい学校を作るか？学生プレゼンテーション)</p> <p>第11回：Unit 4 Food：How do you choose your food? Listening Tasks, Vocabulary Building (ユニット4 食物：あなたはどのようにあなたの食物を選ぶか？聞く 語彙の組み立て)</p> <p>第12回：Unit 4 Food：How do you choose your food? Speaking Tasks, Grammar, Design a survey (ユニット4 食物：あなたはどのようにあなたの食物を選ぶか？話す 文法、デザイン調査)</p> <p>第13回：Unit 5 Fun：What makes something fun? Listening Tasks, Speaking Tasks, Vocabulary Building (ユニット5 楽しみ：何のため何かを楽しみにするか？聞き取り仕事 話す 語彙の組み立て)</p> <p>第14回：Unit 5 Fun：What makes something fun? Speaking Tasks, Pronunciation, Grammar (ユニット5 楽しみ：何のため何かを楽しみにするか？話す 発音、文法)</p> <p>第15回：Unit 5 Fun：What makes something fun? Participation in Group Discussions (ユニット5 楽しみ：何のため何かを楽しみにするか？グループ議論の参加)</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Listening and Speaking Patterns 3 Andrew E. Bennett 著 NAN' UN-DO ・5分間 新TOEICテスト・リーディング450 南雲堂
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英和辞典、和英辞典、英英辞典
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験 (70%)、レポート (30%)</p>

授業科目名： 情報処理法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 加藤充布 担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 ・コンピュータや情報の歴史や理論を知り、現在社会における情報処理能力の重要性を理解し 情報処理の実習を通して、具体的な情報処理能力を身に付ける。 ・情報倫理を学び、正しい情報処理ができる。			
授業の概要 現在の複雑化した高度情報化社会において、適切な情報活用は生活に不可欠なものである。 本演習は、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付ける ことを目的とする。更にICT教育の重要性が増す中、教育における情報の役割と活用につ いて理解したうえで、コンピュータの仕組みやソフトウェアの利用方法、インターネットを通し ての情報検索、電子メールの受発信などの基礎的な知識と技能について実践的に学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 情報処理の目標と意義、講義のねらいと方法、評価などの説明 第2回：コンピュータ・情報の歴史と理論 第3回：情報の役割と情報倫理 第4回：情報処理の実際、Wordによる文書入力 第5回：情報処理の実際、Wordによる文書作成 第6回：情報処理の実際、Wordによる文書作成の応用 第7回：情報処理の実際、Excelの基礎計算 第8回：情報処理の実際、Excelのワークシートの活用 第9回：情報処理の実際、Excelのグラフ作成 第10回：情報処理の実際、Excelの計算処理 第11回：情報処理の実際、PowerPointの基礎、プレゼンテーションの基本 第12回：情報処理の実際、PowerPointの応用 第13回：情報処理の実際、インターネットによる情報収集・発信の方法と留意点 第14回：情報処理の実際、電子メール、SNSなどによる情報収集・発信の方法と留意点 第15回：全体の振り返りとまとめ 定期試験 テキスト			

最初の講義時に資料を配布する。
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 毎回のリアクションペーパー提出（30%）、提出課題（30%）、定期試験（40%）を総合して成績評価を決める。

授業科目名： 情報活用法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山川恭子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> 「情報処理法」の学習を踏まえて、職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付ける。 			
授業の概要			
<p>「情報処理法」の学習を踏まえて、本演習は、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる基本的な情報処理能力を身に付けることを目的として、主体的に情報を収集し、分析し、判断し、創作する能力と情報モラルや情報機器及び情報通信ネットワーク、各種オンラインサービスなどの機能に関する基本的な知識と利用技術を学ぶとともに、情報の活用技術について体験的に学習する。更に教育におけるICT活用を考慮して、学習におけるタブレット端末の活用、デジタル教科書の利用、電子黒板の活用なども視野に入れた学習を進める。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 情報処理の目標と意義、講義のねらいと方法、評価などの説明			
第2回：情報活用の考え方と方法			
第3回：教育課題の情報収集の実習「教員の資質とは」 収集内容の発表①			
第4回：教育課題の情報収集の実習「教員のやりがいと難しさ」 収集内容の発表②			
第5回：教育課題の情報収集の実習「子どもや親とのコミュニケーション」 収集内容の発表③			
第6回：教育課題の情報収集の実習「不登校といじめ」 収集内容の発表④			
第7回：教育課題の情報収集の実習「少人数・習熟度別指導」 収集内容の発表⑤			
第8回：教育課題の情報収集の実習「キャリア教育」 収集内容の発表⑥			
第9回：教育課題の情報収集の実習「ICTの教育利用」 収集内容の発表⑦			
第10回：教育課題の情報収集の実習「食育・偏食対策」 収集内容の発表⑧			
第11回：教育課題の情報収集の実習「特別支援教育」 収集内容の発表⑨			
第12回：情報処理の倫理的問題と対処法「情報漏洩問題と対策」 収集内容の発表①			
第13回：情報処理の倫理的問題と対処法「教員の守秘義務」 収集内容の発表②			
第14回：情報処理の倫理的問題と対処法「ネチケットの指導」 収集内容の発表③			
第15回：全体の振り返りとまとめ			
定期試験			
テキスト			

最初の講義時に資料を配布する。
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 毎回のリアクションペーパー提出（30%）、発表・提出課題（30%）、定期試験（40%）を総合して成績評価を決める。

授業科目名： 教育学概論（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 滝沢和彦
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校及び高等学校の教員を養成するという観点から、教育学における基礎的な概念及び教育史における基本的事項の学習から始め、続いて教育史における代表的な思想、特に教育の本質や目的に関わる議論のいくつかを取り上げて、それぞれの思想が時代や文化の制約の中ではあるが、ある教育問題をどう認識し、その問題にどうアプローチしようとしたのかを学ぶ。こうした作業によって、既存の教育観にとらわれずに現実の教育を原理的・歴史的な視点から見る眼を鍛えていきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎概念を身に付け、教育という営みを成り立たせている諸要因とそれら相互の関係を理解する。 ・教育及び学校教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、過去から現在に至るまでの教育や学校教育の変遷を理解する。 ・教育に関する多様な思想に触れ、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校の関わりを理解する。 ・本科目での学習を踏まえ、自分なりの教育観を確立しようとする態度を形成する。 			
<p>授業の概要</p> <p>講義による授業を主体とするが、テキスト及び必要なプリント資料を活用するとともに、学生自身による資料の収集や整理、報告や発表、グループにおける意見交換や討論を重視する。</p> <p>「事前学習」「事後学習」については、毎回指示をする。</p>			
<p>第1回：教育の概念</p> <p>学校以外にも教育の場としての家庭や地域社会、また社会教育等があることを知り、教育現実の多様性と教育概念の多義性について理解する。また、教育と関連する諸概念について理解する。</p> <p>第2回：教育の理念</p> <p>教育の本質と目的・目標が歴史上、特に伝統社会における共同体への参加と模倣という成長過程の喪失、身分社会から契約社会への転換、そして子どもの発見といった家庭と社会、そして子ども観の近代化への歴史的過程においてどう語られてきたか、また今後どう語られるべきであるかを考える。</p> <p>第3回：教育思想の源流（1）</p> <p>ソクラテスの教育思想について、「想起説」と学びの構造を中心に理解する。</p> <p>第4回：教育思想の源流（2）</p> <p>プラトンの教育思想について、「洞窟の比喻」と哲人王の思想を中心に理解する。</p>			

第5回：教育思想の源流（3）

アリストテレスの教育思想について、三元論的発達論（習慣論）や公教育、自由教育の思想について理解する。あわせて、その後のヨーロッパにおける自由教育思想の系譜について理解する。

第6回：近代教育思想（1）

近代教育思想の成立を支えた歴史的背景及び近代民主主義の諸原理について理解する。

第7回：近代教育思想（2）

「子どもの発見」と新教育運動を支えた思想について理解する。

第8回：近代公教育の教育思想と制度

欧米における近代公教育制度の展開、特に中等教育の思想と制度の展開について理解する。

第9回：教育方法論の展開（1）

教授学の流れについて理解する。

第10回：教育方法論の展開（2）

生活教育の思想の流れについて理解する。

第11回：20世紀の教育思想

20世紀の欧米の教育思想の流れについて理解する。

第12回：近現代日本の教育制度と教育思想

近現代日本の教育制度と教育思想について、その概要を理解する。

第13回：現代日本の教育思想と教育実践

戦後の学習指導要領の変遷や子どもをめぐる諸問題の変遷について、その概要を理解する。

第14回：現代社会における教育課題

変化の激しい現代における家庭や子どもの変貌、そして学校や学習の在り方がどう変わろうとしているのか。歴史的、思想的な観点から考える。

第15回：まとめ—現代日本の教育改革の動向

これまでの学習のまとめとして、現在の教育改革の最新動向について理解する。

定期試験は実施しない

テキスト 滝沢和彦（編著）『教育学原論』ミネルヴァ書房

中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編 東山書房、

高等学校学習指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）解説総則編 東洋館出版社

参考書・参考資料等

必要に応じてその都度紹介する。

学生に対する評価

各回における課題（50%）及び学期末レポート（50%）により評価する。

授業科目名： 教職概論（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 滝沢和彦
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>今日における教職の重要性は高まる一方であるが、その一方で教職課程の履修者や教採の受験者は減少傾向にある。本講義ではこうした現状を正面から見据え、改めて教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を深く考察し、これによって教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、教員という進路をみずから選択することについて省察を深めることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中等教育を中心に、我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 ・教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 ・教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 ・学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>講義による授業を主体とするが、テキスト及び必要なプリント資料を活用するとともに、学生自身による資料の収集や整理、報告や発表、グループにおける意見交換や討論を重視する。「事前学習」「事後学習」については、毎回指示をする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Ⅰ、教職への志向の確認</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学部及び専攻のディプロマポリシー（学位授与の方針=DP）を確認する。 (2) なぜ教職・スポーツ指導者を志したのか振り返り、意見交換する。 <p>第2回：Ⅱ、教師の仕事とは</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教師の一日について考える。 (2) 教師の1年について考える。 (3) 中・高教師にとっての今日の新しい課題について考え、意見交換するー <p>第3回：Ⅲー1、日本の教育の現状と今求められる教師像（教師集団）（その1）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「日本型学校教育」の成り立ちと成果、課題について理解する。 (2) 「日本型学校教育」から「令和の日本型学校教育」への転換について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ー「個別最適な学び」と「協働の学び」ー <p>第4回：Ⅲー2、日本の教育の現状と今求められる教師像（教師集団）（その2）</p> <ol style="list-style-type: none"> (3) 教師に求められる資質能力はどう語られてきた。過去の中教審答申の内容を、その時代背景を踏まえて理解する。 			

- (4) 「令和の日本型学校教育」の担う教師の養成・採用・研修の在り方について、中教審答の申内容を理解する

第5回：Ⅲ－3、日本の教育の現状と今求められる教師像（教師集団）（その3）

- (5) 「理論と実践の往還」の手法（理論による実践の省察）による授業観・学習観の転換について理解する。
- (6) 専門職（省察的実践家）としての教師像について、「学び続ける教師像」の議論を踏まえて理解する。

第6回：Ⅲ－4、日本の教育の現状と今求められる教師像（教師集団）（その4）

- (7) これまでの現場体験学習の経験を振り返り、「理論と実践の往還」「省察」の意義について学生間で改めて共有し、理解を深める。

第7回：Ⅳ、学校の組織・教員の職務内容と教育法規

- (1) 学校の組織編制、職名、校務分掌等教員の職務内容の全体像について、主要法規の関係箇所の記述を踏まえて理解する。

- ① 教育基本法、②学校教育法、③学校教育法施行規則

第8回：Ⅴ、教員に課せられる服務上・身分上の義務、

- (1) 教員に課せられる服務上・身分上の義務、及び教員としての研修の意義と制度、教員育成にかかる指標や協議会、そして身分保障について、主要法規の関係箇所の記述を踏まえて理解する。

- ① 地方公務員法、②教育公務員特例法

第9回：Ⅵ－1、現在の教育課題と教師の任務・資質（生徒指導その1）

- (1) 前年度の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」について、概要を理解する。
- (2) いじめについてその定義と実態を知るとともに、「いじめの防止等」、「重大事態」の意味について、法規の関係箇所の記述を踏まえて理解し、いじめ対策の実践例について各自の調査をまとめる。

- ①いじめ防止対策推進法、②『生徒指導提要』

第10回：Ⅵ－2、現在の教育課題と教師の任務・資質（生徒指導その2）

- (3) 前回以降調査したいじめ対策の実践例についてグループで発表し、経験を共有、その成果を改めてミニレポートにまとめる。

第11回：Ⅵ－3、現在の教育課題と教師の任務・資質（生徒指導その3）

- (1) 不登校（長期欠席）についてその定義と実態を知るとともに、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」を理解し、「学びの多様化学校」の設置や「スクールカウンセラー」、「スクールソーシャルワーカー」による教育相談体制の充実といった、学校と学校内外の専門家との連携に関する政策動向について理解する。フリースクール等の学校外における学びの機会についても調べてみる。

①義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律、②『生徒指導提要』

第12回：VI-4、現在の教育課題と教師の任務（学校と家庭、地域社会、学校内外の専門家との連携）（その1）

- (1) 地域の教育力の活用
- (2) 学校の情報公開
- (3) 保護者や地域人材の参画による学校運営
－「開かれた学校」から「社会とともにある学校」へ

第13回：VI-5、現在の教育課題と教師の任務（学校と家庭、地域社会、学校内外の専門家との連携）（その2）

- (4) 子どもたちの「多様化」への対応
－特別支援教育、「格差」問題
- (5) 改めて学校と家庭、地域社会、学校内外の専門家との連携を考える。
－「チームとしての学校」

第14回：VII、「教職ブラック論」や「教師不足」をどう考えるか

教職ブラック論や教師不足・教採受験者減少の情報とともに、教師の働き方改革をめぐる議論もあわせて考え、教職への志向を励ましたい。

第15回：まとめ－変動する社会における学校と教師

情報化、少子高齢化、グローバル化、そして子どもと教育に関わる諸問題の複雑化等の現状踏まえ、改めて変動する日本社会における学校と教師の在り方を展望し、自身の教職への志向について再確認する。

定期試験は実施しない

テキスト 必要に応じて、プリントを用意する。

中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編 東山書房、
高等学校学習指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）解説総則編 東洋館出版社

参考書・参考資料等

滝沢和彦（編著）『教育学原論』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

各回の課題（50%）、期末レポート（50%）で評価する。

授業科目名： 教育行政学 (幼・小・中・高)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉原(吉田)美那子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>本授業は、現代社会の状況を踏まえつつ、学校教育に関わる社会的、制度的、経営的な事項について学ぶことを目的とする。到達目標は次の3つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公教育制度の原則、教育行政の組織と役割、学校経営の基礎的な知識を理解している。 2) 学校の組織構成、またそれと諸機関との関係を把握した上で、学校と地域との連携の意義と課題、学校の危機管理の必要性と手法を、事例を踏まえながら説明することができる。 3) 現代の社会の状況と子どもの学びの環境の変化について説明することができ、かつ今の子どもあるいは学校が抱えている問題は何か自ら見出し議論することができる。 			
授業の概要			
<p>教育行政や学校経営は、多くの法令に基づいて実施されており、教員の教育活動に直接結び付いている。そして教員は学校組織の一員として他の教員との連携の下に教育活動に従事している。従って、教員は教員としての在り方を、教育行政・経営との関連で理解しておく必要がある。これを踏まえた上で本授業は、公教育制度の原則、教育関連法規に基づきながら、実際に教育行政や学校経営がどのように動いているのかを知る手がかりとなる。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス(学習の進め方、評価方法の確認、これまでの学校経験を振り返ろう)			
第2回：【教育の理念や制度①】教育を受ける権利の保障と今の子どもをめぐる環境の変化			
第3回：【教育の理念や制度②】公教育制度の原則、日本の重要な教育法規			
第4回：【教育の理念や制度③】日本の教育制度とそれに関わる法規、海外諸国の教育制度			
第5回：【教育の理念や制度④】学校の定義、現代社会のニーズに応じた多様な学校			
第6回：【教育行財政①】教育行政機関の仕組み(文部科学省と教育委員会、学校との関係)			
第7回：【教育行財政②】教育財政(教育費の考え方、国や地方自治体の教育費の内訳)			
第8回：【教育行財政③】教育課程行政と著作権			
第9回：【学校の組織と経営①】学校の組織と教職員の配置、学校経営			
第10回：【学校の組織と経営②】児童・生徒に関わる教育法律、学級経営			
第11回：【学校の組織と経営③】学校内外との連携づくり、学校と地域の連携の今日的意義			
第12回：【教育行政と教育財政④(応用)】教育行政の役割のまとめ (国や県、市町村の役割分担、国内外の政策の最新動向を調べる)			
第13回：【学校の組織と経営④(応用)】地域社会と学校と地域との連携を調べる			

(地方自治体の教育施策やコミュニティ・スクールの事例)

第14回：【学校の組織と経営⑤（応用）】今求められる安全教育、防災教育を考える

第15回：全授業の振り返りと自己チェック

定期試験

テキスト

特に定めない。

参考書・参考資料等

加藤崇英他(2016)『新訂版 教育の組織と経営—教育制度改革と行政の役割』学事出版や青木栄一他(2019)『教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房など。その他の参考資料は授業の中で提示する。

中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編 東山書房，

高等学校学習指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）解説総則編 東洋館出版社

小学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編

幼稚園教育要領解説（平成29年3月告示 文部科学省）

学生に対する評価

授業内での課題と授業外で取り組む課題（50%）、中間レポート（20%）、定期試験（30%）

授業科目名： 学校・学級経営	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田浩之
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>[テーマ] 学校経営及び学級経営の基本事項と今日的課題に対応する実践力を学ぶ</p> <p>[到達目標]</p> <p>(1) 公教育の目的を実現するための学校経営のP D C Aの具体例を説明することができる。</p> <p>(2) 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解し、考えをまとめ発表することができる。</p> <p>(3) 教職員や学校外の関係者・関係機関等との連携・協働の在り方を説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代の学校教育に関する経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解し、また学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識を身に付けるよう、授業を進める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校及び教育行政機関の目的とその実現</p> <p>第2回：教育の目的を踏まえた学校経営</p> <p>第3回：学校における教育活動の年間計画と学校評価</p> <p>第4回：学級経営の仕組みと効果的な方法</p> <p>第5回：学級経営案の理解と作成</p> <p>第6回：学校・学級経営における学校外の関係者・関係機関との連携・協働</p> <p>第7回：学校経営の事例検討</p> <p>第8回：学級経営の事例検討</p> <p>第9回：地域との連携・協働による学校教育活動の意義と方法</p> <p>第10回：地域との連携を基とする社会に開かれた学校・学級経営</p> <p>第11回：学校と地域との連携・協働の事例</p> <p>第12回：学校の管理下における事件、事故及び災害等の現状</p> <p>第13回：学校安全・危機管理等に関連する法令と指針・通知等</p> <p>第14回：学校の管理下における事件、事故及び災害等への対応</p> <p>第15回：新たな学校安全・危機管理上の課題と取組</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			

小学校学習指導要領 解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）東洋館出版社，
中学校学習指導要領 解説総則編（平成29年7月告示 文部科学省）東山書房，
高等学校学習指導要領 解説総則編（平成30年7月告示 文部科学省）東洋館出版社

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

毎時の学習シート内容（60%），課題レポート内容（20%），発表・対話的学び内容（20%）

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 星野真由美
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の対象である幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解している。 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解している。 ・問題行動や障害について理解し、支援について基礎的な考え方を理解している。 ・学んだ理論や方法を子ども理解や支援に応用することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション 教育心理学とは 教育心理学を学ぶ意義</p> <p>第2回：心身の発達とかかわり方 発達とは</p> <p>第3回：認知の発達 ピアジェの認知的発達論</p> <p>第4回：思考の発達 自己の発達</p> <p>第5回：感情の発達 感情抑制の発達</p> <p>第6回：心の成長 フロイト、エリクソンの発達理論</p> <p>第7回：他者とのかかわり 社会性の発達、愛着の発達、親子関係</p> <p>第8回：遊びの発達 遊びを通じた学びの過程 遊びと相互作用</p> <p>第9回：学習の理論</p> <p>第10回：学習意欲 外発的動機付け、内発的動機付け</p> <p>第11回：学級集団の心理 集団づくり</p> <p>第12回：学習評価のあり方</p> <p>第13回：発達期における障害の理解と支援</p> <p>第14回：発達の特徴から捉える教育現場の課題① いじめの現状、原因の理解と対応</p> <p>第15回：発達の特徴から捉える教育現場の課題② 不登校の現状と原因を理解と対応</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>藤田圭一・斎藤雅英・宇部弘子編著『新 発達と教育の心理学』福村出版</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編 東山書房、</p>			

高等学校学習指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）解説総則編 東洋館出版社
小学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編
幼稚園教育要領解説（平成29年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

講義内で適宜紹介する。

学生に対する評価

授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）で総合評価する。

授業科目名： 特別支援教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 栗山宣夫
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別支援学校や特別支援学級のみならず、通常学級にいる特別な支援を要する幼児児童生徒が学ぶ力、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児児童生徒の特性（障害の特性を含めて）や困り感を理解し、個別の教育的ニーズに応じた支援をするための知識や支援方法について理解できるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援教育の教育課程や支援の方法について学ぶ。 2. 特別な支援を要する幼児児童生徒の、障害特性及び発達について学ぶ。 3. 障害以外の理由による特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の理解とそれへの支援について、家族支援や他職種連携によるトータルケアやそれに向けたコーディネートも含めて学ぶ。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：インクルーシブとは何か。インクルーシブ教育システムと特別支援教育の制度と理念</p> <p>第2回：特別支援教育の教育課程（1）教育課程の考え方の基本と自立活動</p> <p>第3回：特別支援教育の教育課程（2）通級による指導及び通常学級と特別支援学級・学校との関係</p> <p>第4回：発達障害（ASD）の理解</p> <p>第5回：発達障害（ASD）の理解と支援</p> <p>第6回：発達障害（ADHD）の理解と支援</p> <p>第7回：発達障害（LD）の理解と支援</p> <p>第8回：知的障害の理解と支援</p> <p>第9回：肢体不自由（脳性マヒ）の理解と支援</p> <p>第10回：肢体不自由（二分脊椎・筋ジストロフィー等）の理解と支援</p> <p>第11回：視覚障害の理解と支援</p> <p>第12回：聴覚障害の理解と支援</p> <p>第13回：病弱児の理解と支援</p> <p>第14回：病気や障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の状況の理解と支援</p> <p>第15回：トータルケアとは何か。家族支援も含めた他職種連携とコーディネート</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育，みらい，小林徹・栗山宣夫編
中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編 東山書房，
高等学校学習指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）解説総則編 東洋館出版社
小学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編
幼稚園教育教育要領解説（平成29年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

適宜配布又は指示する

学生に対する評価

定期試験70% 授業の様子（肢体不自由児の介助、視覚障害児の移動支援など実践的体験的に学ぶ場面もある）30%を総合して評価する。

授業科目名： 教育課程論（中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中怜、山本佐江 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・中等教育における教育課程編成の意義や果たす役割について理解できるようになり、教育課程とカリキュラムという概念の異同を把握することができるようになる。 ・学習指導要領の歴史的変遷と現在の動向について理解できるようになる。 ・「学習指導要領」「カリキュラム・マネジメント」「潜在的カリキュラム」「学校と生活の接続問題」「教科書検定制度」についてその概要と論点を説明できるようになる。 			
授業の概要			
<p>教育課程とは、学校で子どもたちに対して教え学ばれる意図的かつ組織的な教育の内容のことである。一方、学術用語としての「カリキュラム」概念は、教育課程と意味の重なりを持ちつつも、それを越えた広がりを持つ。本講義では、教育課程とカリキュラムという2つの概念を手がかりにしながら、学校において取り扱われる教育内容の編成原理、歴史的変遷、意義と課題について多視点的に捉えていく。特に「学習指導要領」「カリキュラム・マネジメント」「潜在的カリキュラム」「学校と生活の接続問題」などの概念の理解を通して、受講者が抱いている教育課程・カリキュラムに対する観念を多様かつ別様なものに組み替えていくことが目指される。</p>			
授業計画			
第1回：本講義の概要（オリエンテーション）（担当：田中怜）			
第2回：教育課程とカリキュラム——何がどう違うのか？（担当：田中怜）			
第3回：教育内容の平等性と多様性(1)——学習指導要領の性格について（担当：田中怜）			
第4回：教育内容の平等性と多様性(2)——学習指導要領の法的拘束力と大綱的性格のあいだ（担当：田中怜）			
第5回：系統主義と経験主義——学習指導要領の「振り子」を理解する（担当：田中怜）			
第6回：能力をどう育てるのか——資質・能力ベースのカリキュラムをめぐる諸論点（担当：田中怜）			
第7回：「隠れた」カリキュラムと「隠した」カリキュラム——潜在的カリキュラムを理解する（担当：田中怜）			
第8回：教科の教育課程と教科外のカリキュラム——教育課程編成の境界（担当：田中怜、山本佐江）			
第9回：計画されたカリキュラムと経験されたカリキュラム——カリキュラム概念の複層性（			

担当：山本佐江)

第10回：カリキュラム・マネジメントとは何か——カリキュラムを編成・運用する方法（担当：山本佐江）

第11回：カリキュラムを評価する(1)——パフォーマンス評価を通して（担当：山本佐江）

第12回：カリキュラムを評価する(2)——教育課程の計画と点検・評価（担当：山本佐江）

第13回：学校で学ぶことは生活の役に立つのか——「学校と生活の接続問題」の教授学（担当：田中怜）

第14回：教育内容における「現実」とはなにか——「命の授業」から考える（担当：田中怜）

第15回：カリキュラム研究のために——本講義のまとめ（担当：田中怜）

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年7月告示）解説総則編 東山書房、

高等学校学習指導要領（平成30年7月告示）解説総則編 東洋館出版社

授業内で適宜資料配布

参考書・参考資料等

1. 吉田武男監修/根津朋実編著『教育課程(MINERVAはじめて学ぶ教職)』（ミネルヴァ書房，2019年）
2. 樋口直宏/林尚示/牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育の方法と技術論』（学事出版，2020年）

学生に対する評価

以下の各項目に沿って最大100%で評価する。①講義内で提出するコメントペーパー(30%)、②講義の予習・復習を目的としたレポート(30%)、③グループプレゼンテーションの成果(15%)、④期末レポート(25%)

授業科目名： 道徳の指導法（小・中 ）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鎌水浩 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義は1年次履修科目「道徳教育論」の基礎の上に、小学校及び中学校教育課程における「特別の教科道徳」の指導計画や授業過程及び指導方法や評価等について、また道徳教育と各教科や総合的な学習の時間、特別活動との関係や日常的な生徒指導における道徳教育の意義について学ぶことを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>これまでの戦前・戦後の道徳教育の変遷をたどりながら様々な道徳教育実践や世界各国の道徳教育の内容を理解し、今求められる道徳の授業とは何かを検討する。さらに実際に指導案を作成し模擬授業を行い、相互に批判検討の機会を持って力量向上を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:道徳教育の現状と課題</p> <p>第2回:道徳教育と科学</p> <p>第3回:コミュニケーション活動と道徳性</p> <p>第4回:日本の道徳教育の歩み ー江戸時代から大正期までー</p> <p>第5回:日本の道徳教育の歩み ー昭和期から現在までー</p> <p>第6回:道徳の授業理論と方法 ーコールバーグの理論とモラルジレンマ授業ー</p> <p>第7回:道徳の授業理論と方法 ー総合単元的道徳学習、モラルスキルトレーニングー</p> <p>第8回:道徳教育と他領域との関連 ー「総合的な学習の時間」を中心にー</p> <p>第9回:道徳授業の指導計画と指導過程</p> <p>第10回:道徳授業における教材、資料の効果的な使い方</p> <p>第11回:道徳授業指導案の作成方法と留意点</p> <p>第12回:道徳授業の指導案づくり① ねらいを中心に</p> <p>第13回:道徳授業の指導案づくり② 授業展開を中心に</p> <p>第14回:道徳模擬授業の展開</p> <p>グループ内で自らが作成した指導案を基に模擬授業を行う。</p> <p>第15回:全体のまとめ</p> <p>実施した模擬授業についてグループ内で評価する。</p>			

定期試験
テキスト
『道徳性と反道徳性の教育論』 鎌水浩（著） 晃洋書房 配布するプリント資料
参考書・参考資料等
・『道徳教育を学ぶ人のために』 小寺 正一、藤永芳純（著） 世界思想社 ・『道徳性心理学』 日本道徳性心理学研究会（編著） 北大路書房 ・『人間を科学する道徳授業－ヒューマン・スタディ』 鎌水 浩（著） 日本標準 ・小学校学習指導要領解説（平成29年7月告示 文部科学省）特別の教科 道徳編 ・中学校学習指導要領解説（平成29年7月告示 文部科学省）特別の教科 道徳編
学生に対する評価
定期試験50%、レポート（指導案）10%、模擬授業15%、授業への取り組み25%を総合的に判断する。

授業科目名： 総合的な学習（探究） の時間の指導法（小・ 中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鍵水浩 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義は小学校、中学校及び高等学校における「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」の意義、目的を理解するとともに、学校現場の実践に学び、その特色や課題を分析することを目的とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各学校種及び発達段階を踏まえた効果的な「総合的な学習（探究）の時間」の授業のあり方を考察し、各自のテーマ設定による調査活動を基に単元構成を行うとともに具体的な授業プランを作成する。作成後は相互に発表及び意見交換を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:ガイダンス（授業の概要と留意点）</p> <p>第2回: 小学校、中学校、高等学校における総合学習(探究)の意義と目的</p> <p>第3回:教育課程上の位置づけと各教科、領域との関連</p> <p>第4回:単元構成の重点</p> <p>第5回:全体計画と指導計画</p> <p>第6回:調査的学習活動の意義と方法、留意点</p> <p>第7回:体験的学習活動の意義と方法、留意点</p> <p>第8回:外部人材の活用の意義と実践例、留意点</p> <p>第9回:評価の基本的な考え方と評価方法</p> <p>第10回: 小学校、中学校、高等学校での実践事例①（調査的学習活動）</p> <p>第11回: 小学校、中学校、高等学校での実践事例②（体験的学習活動）</p> <p>第12回:単元指導計画の作成</p> <p>第13回:授業づくり①（情報、資料収集）</p> <p>第14回:授業づくり②（発表準備）</p> <p>第15回:発表と相互評価</p> <p>グループ内で各自が作成した単元内容を発表する。</p> <p>定期試験</p>			
テキスト			

配布するプリント資料
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説(平成29年7月告示 文部科学省)総合的な学習の時間編 高等学校学習指導要領解説(平成30年7月告示 文部科学省)総合的な探究の時間編 小学校学習指導要領解説(平成29年7月告示 文部科学省)総合的な学習の時間編
学生に対する評価 授業への取り組み20% レポート(授業プラン作成) 30% 定期試験50%

授業科目名： 特別活動の指導法 (小・中・高)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田浩之 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
[テーマ] 特別活動の基本事項と今日的課題に対応する実践力を学ぶ			
[到達目標]			
(1) 学習指導要領における特別活動の位置づけと基本事項を説明することができる。			
(2) 特別活動の指導のあり方を理解し，考えをまとめ，発表することができる。			
(3) 特別活動の指導計画と学級活動の学習指導案を作成することができる。			
授業の概要			
特別活動の基本事項と具体的事例を取り上げ，学校現場における指導方法を例示したうえで，指導計画と学級活動授業の学習指導案を作成できるよう，授業を進める。			
授業計画			
第1回：学習指導要領における特別活動の目標と内容，各教科等との関連，歴史			
第2回：教育課程における特別活動の位置付け，特別活動と各教科等との関連			
第3回：教育課程と特別活動の指導の在り方，家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方			
第4回：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容，集団活動の意義や指導の在り方			
第5回：学級活動・ホームルーム活動の内容（1）と合意形成に向けた話し合いの実際			
第6回：学級活動・ホームルーム活動の内容（2）と意思決定に向けた指導の実際 (学習，生活，健康安全等の課題解決を中心に)			
第7回：学級活動・ホームルーム活動の内容（3）と意思決定に向けた指導の実際 (自己実現，キャリア発達等の課題解決を中心に)			
第8回：学級活動・ホームルーム活動の指導計画と学習指導案の作成			
第9回：学級活動・ホームルーム活動の学習指導案の発表と模擬授業			
第10回：児童会・生徒会活動の目標・内容と特質			
第11回：学校行事の目標・内容と事例			
第12回：クラブ活動の目標・内容と事例			
第13回：特別活動の指導計画の作成			
第14回：特別活動における取組の評価・改善と指導要録の記入			
第15回：これからの特別活動と今日的課題・動向に対する特別活動			
定期試験は実施しない。			

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省） 解説 特別活動編 東洋館出版社

中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省） 解説 特別活動編 東山書房

高等学校学習指導要領（平成30年7月告示 文部科学省） 解説 特別活動編 東洋館出版社

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

毎時の学習シート内容（60%），課題レポート内容（20%），発表・対話的学び内容（20%）

授業科目名： 教育方法論（ICT活用を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本佐江、吉井健人 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：教材研究、授業づくり、授業研究、教育評価、ICT活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の技術および方法の基礎的な理論を理解する。 ・理解したことに基づき、コンピュータを活用した指導方法、視聴覚教材づくり、メディア利用等の授業づくりを構想し実行する。 ・行った授業を省察し、自己評価と相互評価を行うことができる。 			
授業の概要			
<p>教育の目的・目標・内容論（学習指導要領、学習指導の基本原則）、授業論（教授・学習過程の構造、教授・学習形態と学習指導、発問・指示・板書の技術、教育メディア・情報機器の活用）、教材論（教科書・教材の研究と開発、インターネット利用とコンテンツ活用）、評価論（評価方法とその意義・活用）について、理解を深めるようにする。</p>			
授業計画			
<p>第1回：授業経験の振り返り、求められる教育の方法と技術の理論的基盤の理解</p> <p>世界から注目されてきた日本の授業における学習指導の優れた点を理解する。日本における授業研究の系譜をたどり、その理論的支柱となった人物たちの業績を知る。レッスンスタディ、授業研究、練り上げについて実践的理解を深める。（担当：山本佐江）</p>			
<p>第2回：現代社会におけるICTの役割と導入、教師によるICT活用指導力と先端技術とデジタルコンテンツの活用</p> <p>ICTの活用方法や教育現場での具体的な導入事例について学び、教師に求められるICT活用指導力や先端技術・デジタルコンテンツの活用の意義を理解する（担当：吉井健人）</p>			
<p>第3回：主体的・対話的で深い学びにつながるICTの活用を踏まえたプログラミング教育、情報モラルの重要性、校務の情報化とデータの活用</p> <p>これからのプログラミング教育は思考力育成に向けるのと同時に情報モラル教育の重要性について演習等を踏まえ考察していく。また、校務の情報化とデータ活用により、教育現場の効率化と児童生徒への影響や効果を理解する。（担当：吉井健人）</p>			
<p>第4回：個別最適な学びと対話的・協働的な学び深めるICTの活用、授業における1人1台端末に対応したICTの活用及び学習評価ICTの活用による、個別最適な学びと協働的な学びの深化について理解し、1人1台端末の授業導入における児童生徒の影響や効果について演習を交えて理解</p>			

する。(担当：吉井健人)

第5回：学びを見える化し改善するための評価の基礎的理論と実践

評価パラダイムに関する理論的変遷を追って、多様な評価法が求められている現状を理解する。また、形成的評価の概念を理解し、スタディ・ログなどデータを活用してフィードバックの最適化を図り、児童・生徒が学習の改善に取り組めるようにする指導法を理解する。

(担当：山本佐江)

第6回：主体的・対話的で深い学びの基礎的理論と実践

子ども中心主義、学問中心主義課程における教育課程編成の基本原則を理解する。また、会話や議論とは概念が異なる対話とはどういうものか概念理解を深めながら、直接の対話やオンラインでのやり取りを通して学びを深める方法を知り、実践する。

(担当：山本佐江)

第7回：個別最適な学びと協働的な学びの基礎的理論

個別最適な学びと協働的な学びが重視されるようになった理論的背景を理解した上で、集団における学びと協働的な学び、個に応じた指導および個別最適な学びについてそれぞれの強みと課題を捉え、機能する状況への理解を深める。また、特別な支援を必要とする児童及び生徒へのICT活用を通じた支援の実際を理解する。(担当：山本佐江)

第8回：効果的指導法

ハッティの統合メタ分析による「教育の効果」で紹介されている多様な効果的指導法について、その理論的基盤と共に、効果と限度を理解する。また、ICTの使用を授業の効果に応じて選択する判断力について検討する。(担当：山本佐江)

第9回：活動・授業をつくる「わざ」の活用法

「ふるまい」や「みえ」などの身体的なわざについて知る。説明・指示・発問の差異を理解し、板書の技法を身につけるため、実際にグループで説明・指示や発問を出し合ったり、板書の練習に取り組んだりする。

(担当：山本佐江)

第10回：学習指導案の実践的検討

ICT活用を取り入れた学習指導案の作成法を学んだ後、実際に実践上で使うことを想定して作成し、相互評価によるフィードバックを通してその改善を図る。(担当：山本佐江)

第11回：ICTを活用した学習指導計画発表（1）、導入場面に着目した事後検討

デジタル教材を使って、導入を工夫した授業計画を提示し、模擬授業や発表を行う。

(担当：山本佐江)

第12回：ICTを活用した学習指導計画発表（2）、学習場面に着目した事後検討

個別最適化された学習及び協働的な学びの場面を取り入れた授業計画を提示し、模擬授業や発表を行う。

(担当：山本佐江)

第13回：ICTを活用した学習指導計画発表（3）、学習課題に着目した事後検討

<p>生成AIなどの判断を批判的に思考する活動を組み込んだ授業計画を提示し、模擬授業や発表を行う。 (担当：山本佐江)</p> <p>第14回：ICTを活用した学習指導計画発表（4）、学習環境に着目した事後検討 情報モラル・情報セキュリティに関する授業計画を提示し、模擬授業や発表を行う。 (担当：山本佐江)</p> <p>第15回：学習指導案の実践的検討とまとめ 自他の教科学習指導計画案発表を省察し、ICT活用を組み込みつつ情報活用能力を育成できる成果物であったかについて、カリキュラム・マネジメントの視点で振り返る。また、模擬授業や教育実習などで活用可能な成果物となっているかどうか自己評価し、改善点をまとめる。 (担当：山本佐江)</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>中学校学習指導要領（平成29年7月告示）解説総則編 東山書房 高等学校学習指導要領（平成30年7月告示）解説総則編 東洋館出版社 小学校学習指導要領（平成29年7月告示）解説総則編 講義内で適宜資料配布</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 外国語】 授業づくりの深め方，石井英真，（ミネルヴァ書房） ICT活用の理論と実践，稲垣忠・佐藤和紀（北大路書房）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業終了後のリフレクション(10%)、授業内の課題レポート(30%)、授業内の参加意欲・態度（発言、グループ活動の司会・進行・分担上の貢献、発表）（40%）、期末レポート(20%)</p>

授業科目名： 生徒・進路指導の理論 と方法（小・中・高）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田浩之
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
[テーマ]			
生徒指導及びキャリア教育・進路指導の基本事項と今日的課題に対応する実践力を学ぶ			
[到達目標]			
(1) 生徒指導及びキャリア教育・進路指導の意義や原理の理解に基づき、社会的自己実現に向けた自己指導能力の育成を支える実践方法を述べることができる。			
(2) 生徒指導及びキャリア教育・進路指導に関連する法律、通知及び事例を踏まえ、事案に対応する実践方法を述べることができる。			
(3) 学級・ホームルーム担任の立場から生徒指導及びキャリア教育・進路指導の指導計画を構想することができる。			
授業の概要			
生徒指導及びキャリア教育・進路指導の意義や目的を理解した上で、日常的な指導のあり方や方法を踏まえ、さらに、今日的な生徒指導及びキャリア教育・進路指導の課題に対する学級・ホームルーム経営のあり方、家庭や地域、関係機関との連携等の理論と実際を取り上げ、生徒指導及びキャリア教育・進路指導の基本事項の理解と今日的課題に対応する実践力が高まるよう、授業を進める。			
授業計画			
第1回：生徒指導の意義・定義と目的，生徒指導の実践上の視点			
第2回：生徒指導の方法，生徒指導の取組上の留意点，児童生徒の権利の理解			
第3回：学習指導要領・教育課程と生徒指導			
第4回：チーム学校による生徒指導・教育相談・危機管理体制，学校・家庭・関係機関等との連携等			
第5回：生徒指導に関する法制度等の運用体制，今日的生徒指導上の課題・問題に対する理解と対応			
第6回：いじめに対する理解と対応			
第7回：暴力行為，少年非行，児童虐待，自殺（自死）に対する理解と対応			
第8回：不登校，中途退学に対する理解と対応			
第9回：教育課程におけるキャリア教育・進路指導の位置付け			
第10回：キャリア教育における組織的な指導及び家庭や関係機関等との連携			
第11回：学校の教育活動全体を通じたキャリア教育・進路指導			

第12回：キャリア教育の実践方法とキャリア・パスポートの活用

第13回：キャリア教育の授業の学習指導案の作成

第14回：キャリア教育の指導計画の作成

第15回：キャリア形成の視点に立った評価

定期試験は実施しない。

テキスト

生徒指導・キャリア教育（吉田浩之 北樹出版）

小学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編 東洋館出版社

中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編 東山書房

高等学校学習指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）解説総則編 東洋館出版社

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

毎時の学習シート内容（60%）、課題レポート内容（20%）、発表・対話的学び内容（20%）

授業科目名： 教育相談の理論と方法 (幼・小・中・高)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 星野真由美 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>本科目は、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭を目指すうえで、理解しておくべき教育相談に関する基礎的な知識と技法の理解、習得をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の意義と理論を理解している。 ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識・技能の理解している。 ・教育相談の具体的な進め方や組織的な取組み、連携の必要性を理解している。 			
授業の概要			
<p>幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉えた支援の方法（カウンセリングに関する基礎的知識）を学ぶ。具体的な相談事案としての、不登校やいじめ、学校でのメンタルヘルス、保護者との教育相談、障害のある子どもの理解と支援の考え方や方法について学んでいく。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 教育相談の意義と課題			
第2回：教育現場における今日的課題 教育相談の体制			
第3回：カウンセリングの考え方 教育相談の進め方			
第4回：教育相談に活かせるカウンセリングの基本① 幼児・児童・生徒の発達理解と対応			
第5回：教育相談に活かせるカウンセリングの基本② カウンセリングの基礎的な姿勢と技法			
第6回：教育相談に活かせるカウンセリングの基本③ 保護者への理解と対応			
第7回：教育相談に活かせるカウンセリングの基本④ 心理教育、予防・開発的カウンセリング			
第8回：教育相談の具体的な対応① いじめ			
第9回：教育相談の具体的な対応② 不登校、不登園			
第10回：教育相談の具体的な対応③ 虐待			
第11回：教育相談の具体的な対応④ 配慮を要する幼児・児童・生徒への対応			
第12回：教育相談の具体的な対応⑤ 家庭環境、親子関係の問題とその対応			
第13回：学校におけるメンタルヘルス 幼児・児童・生徒のストレス、教員のストレス			
第14回：学校におけるメンタルヘルス 心の問題の理解と対応（不安障害、PTSD、気分障害、心身症）			
第15回：他職種や外部機関との連携			

定期試験**テキスト**

授業プリントと関連資料の提供。

中学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編 東山書房，

高等学校学習指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）解説総則編 東洋館出版社

小学校学習指導要領（平成29年7月告示 文部科学省）解説総則編

幼稚園教育教育要領解説（平成29年3月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

講義内で適宜紹介する。

学生に対する評価

授業参加状況等（40%）、定期試験（60%）で総合評価する。

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中・高）		単位数：2単位		担当教員名： 上原（フーゲンブーム）景子、 細井洋伸、鶴生川恵美子	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 概ね20人程度（受講者により変動あり）					
教員の連携・協力体制 教職に関する科目の担当教員を中心に、学校現場の経験者や教科化に関する科目の担当教員等が協力して行う。					
授業のテーマ及び到達目標 使命感や責任感、教育的熱意を持って、教科指導、生徒指導等を実践できる資質能力を最終的に習得できている。また、教職課程の授業科目の履修や様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として必要な資質能力として有機的に統合、形成され身につけている。					
授業の概要 教員組織における自己の役割や、校務運営の重要性、保護者や地域との連携・協力の重要性等を学ぶ。また、模擬授業の実施を通じて、教員としての表現力や授業力、生徒の反応を活かした授業づくり、皆で協力して取り組む姿勢を育む指導法等についても学び、現場教員や学外の教育力などに関する講義を通して学生の主体的・体験的・実践的な資質能力を育成する。					
授業計画 第1回：授業ガイダンスと教育と将来への進路との関連と活用、教職履修カルテの確認 第2回：学校内における組織、民間教育機関ならびに教育組織の人間関係 第3回：学校教育に関わる文部科学省、教育委員会の役割や運営業務のリアリティ 第4回：ICT教育の必要性和学校での実施状況、活用方法とそのノウハウ 第5回：学校における生徒指導の現状と望ましい指導のあり方 第6回：学校における学級経営の実際と担任の業務内容 第7回：学生による模擬授業の実施① 効果的なウォームアップ活動について（中学校） 第8回：学生による模擬授業の実施② 英語を用いた英語授業の設計について（中学校） 第9回：学生による模擬授業の実施③ ALT と効果的にチームティーチングする方法（中学校） 第10回：学生による模擬授業の実施④ 教科書の効果的な使用方法（中学校） 第11回：学生による模擬授業の実施⑤ 英語を用いた英語授業の設計について（高等学校） 第12回：学生による模擬授業の実施⑥ ALT と効果的にチームティーチングする方法（高等学校）					

第13回：学生による模擬授業の実施⑦

教科書の効果的な使用方法（高等学校）

第14回：英語教育の抱える現在の課題についての検討

第15回：履修カルテの整理及び振り返り、まとめ

定期試験は実施しない。

テキスト

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年告示）』
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編（平成30年告示）』

参考書・参考資料等

必要に応じてプリントを配布する。参考文献もトピックに応じて授業内で紹介する。

学生に対する評価

授業への取り組みと課題演習（発表・模擬授業等）（70%）、期末レポート（30%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。